

令和6年度「群馬の道德教育 57集」

A 研究員の研究

1 指導内容の工夫

①道徳的価値の理解を深め、考え、議論する道徳授業を目指して（2年次）

——授業構想シートと第一中道徳ワークシートの作成・実践・蓄積を通して——

前橋市立第一中学校

高橋 愛夢

②自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成

——生徒が考え、議論する授業構成、発問の工夫を通して——

館林市立多々良中学校

大曾根 麻衣子

③自己の生き方や考え方を見つめ直すことのできる生徒の育成

——多角的な視点で捉える話し合いの方法や発問の工夫を通して——

明和町立明和中学校

久保田 湧己

④自己を見つめ、他者とよりよく生きようとする生徒の育成

——自分との関わりで考える「生徒が考え、議論する道徳」の授業改善を通して——

みなかみ町立みなかみ中学校

小野 露葉

⑤心豊かで、ともに学び高め合う生徒の育成

——生徒の思いや発話に基づく、生徒主体の授業構想を通して——

中之条町立中之条中学校

佐藤 博

⑥道徳的価値に対する自身の考えを深め、生き方を見つめ直すことのできる生徒の育成

——発問や問い返しの工夫による言語活動の充実を目指して——

高崎市立群馬南中学校

二ツ橋 萌香

⑦多様な他者の考えや立場を理解し、自己の生き方について考える授業

——教科書教材とネームプレートを活用した魅力的な授業の実践を通して——

藤岡市立西中学校

齋藤 裕美

⑧多様な考えから、自己のよりよい生き方を考える生徒の育成

——学校全体で取り組む道徳教育の推進——

安中市立松井田中学校

原田 亜矢子

2 ICT の活用

⑨道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する ICT の活用

——考え、議論する道徳の授業作りを通して——

みどり市立笠懸中学校

長谷川 直紀

⑩自他の考えを認め合い、互いに考えようとする生徒の育成

——ICT を活用した実践を通して——

沼田市立沼田西中学校

見城 由昭

⑪自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする生徒を育む道徳教育の創出

——ICT を通して多面的・多角的な視点を取り入れた授業実践——

甘楽町立甘楽中学校

清水 千鶴

3 道徳授業の広がり

⑫多様な他者と共によりよく生きようとする生徒の育成

——全校道徳と授業実践を通して——

玉村町立南中学校

中村 百恵

4 道徳授業の評価

⑬道徳的価値の理解をもとに自他を大切にする生徒の育成

——評価につながる Q-U や振り返りシート、生活記録の活用を通して——

渋川市立赤城北中学校

生方 裕香

⑭誰でも簡単に適正な評価を行なうための評価シートの工夫

——持続可能な評価の仕組み作りを目指して——

太田市立城西中学校

新井 律雄

B 地区別実践

みどり市の実践

道徳的価値の理解を深め、考え、議論する道徳授業を目指して(2年次)

—授業構想シートと第一中道徳ワークシートの作成・実践・蓄積を通して—

前橋市立第一中学校 高橋 愛夢

＜研究のポイントはこれだ！＞

前橋市道徳科研究指定校 1 年次の研究の成果

+

授業構想シートと共通ワークシートの作成・実践・蓄積



- ・生徒・教師の実態を生かした第一中学校スタンダード道徳を全校体制で行うことを通して、考え、議論する道徳の実現
- ・自律した一人の人間として、主体的な判断の下に、他者とよりよく生きる生徒の育成

1 研究主題設定の理由

道徳が教科化されてしばらく経過し、本校では35時間の道徳授業を確実に実行することや、教科書を使って授業をすること、副担任も含めてのローテーション道徳の授業スタイルが定着している。また、本校では道徳において3年間の前橋市教科別研究指定校となり、本年度は研究2年次として、昨年度に引き続き道徳の研究を推進し、さらに校内研修のテーマとすることで学校職員が一致団結して授業改善に取り組む環境が整いつつある。

昨年度の研究の成果と課題（研究の成果と課題については昨年度の令和5年度「群馬の道徳教育56集A-1-①」の紀要を参照のこと）を生かし、全職員である程度共通した指導方法で授業実践を行うことで、より一層の考え、議論する道徳の実現を図りたい。

2 研究のねらい

昨年度の道徳科の校内研修の成果と課題を生かして、考え、議論する道徳の実現と自律した一人の人間として、主体的な判断の下に、他者とよりよく生きる生徒の育成を図る。

3 研究の内容

- (1) 第一中学校スタンダード道徳の指導方法の確立
- (2) 授業構想シートの作成と実践
- (3) 共通ワークシートの作成と実践
- (4) 授業構想シートと共通ワークシートのカリキュラムマネジメント

4 実践の概要

- (1) 第一中学校スタンダード道徳の指導方法の確立

どこの学校でも道徳の授業はそれぞれの教師がオリジナリティを織り交ぜつつの授業スタイルで行っていると思われる。考え、議論する道徳の授業の実現のため、また、ねらいを達成するためにある程度統一した授業の手立てを用いることで両方の実現が図れると考え、以下の手立てを年度初めの校内研修全体会で全職員に共有した。

手立て①問題意識を持たせる

本時で扱う道徳的価値に関わる資料を提示することで、道徳的価値と生徒自身の経験のずれなどを持たせることで授業への主体性をもたせる。

(日常生活の話題から、自作教材から、話題のニュースから、アンケート結果から)

手立て②教科書の範読の前に状況の説明をする

ポイント1：読み取りにならないように（国語科との差別化）あらすじを説明する。

ポイント2：場面絵などを提示し、主人公が誰かを明確にする。

ポイント3：範読を聞く前に何に注目して資料を読むのかを説明してから範読する。

ポイント4：範読後、教科書をしまわせることで資料から発問の答えを探すことを物理的にできないようにする。

(2) 授業構想シートの作成と実践

昨年度の研究成果を全職員で共通理解し、通年実践するために授業構想シートを作成した。作成したシートと赤字で示した記入例を以下に示す。

前橋市立第一中学校 道徳科授業構想シート	
研修主題 自律した一人の人間として、主体的な判断の下に、他者と共によりよく生きる生徒の育成 ～道徳的な価値理解を深め、考え、議論する道徳の授業実践を通して～	
内容項目(A・B・C・D)-(22)よりよく生きる喜び	第2学年 教材名 足袋の季節
学習指導要領の価値項目をもとに授業者が構想した「ねらい」を達成したと考える生徒の姿(記述)	
弱さや醜さを自覚しつつも、それらに打ち勝って前向きに生きようとする	振り返りで生徒が書いてほしいこと
ねらいを達成するための手立て	
①問題意識をどのようにもたせるか(アンケート、ロールプレイ、説話、写真の提示など)	
Google フォームにてアンケートの実施 質問①とっさに、うそをついてしまったことはありますか？ 質問②それはどんなことですか？ 質問③どうせ自分なんてって思うことがありますか？ 質問④どんなときにそう感じましたか？ 質問⑤ 本当のことを言えずに後悔したことがありますか？ 質問⑥後悔したのはどんなことですか？	
②ねらいを達成するための発問1	私だったらおばあさんに本当のことを言う・言わない
あなたなら本当のことをおばあさんに言いますか？ ミライシードのリンク機能を使って共有	
③ねらいを達成するための発問2	
「おばあさんがくれた心」というのはどのようなものだと私は考えているのだろうか？	
④生活との関連を意識させるための追発問	
今までの生活の中で、自分の弱さに打ち勝った経験はありますか？それはどのようなことですか？	
自己を見つめ、自分との関わりで考える発問の工夫(心情メーターの活用など)	
あなたなら本当のことをおばあさんに言いますか？ ミライシードのリンク機能を使って共有	
物事を広い視野から多面的・多角的に考え深める道徳の授業の工夫(シンキングツールの活用など)	
くだものを川に流してやった場面をロールプレイングさせる、おばあさんの視点で考えさせる	
授業を振り返って(授業後に授業者が記述)	
教科書のすべてを扱おうとしたが時間が足りなくなりました。ねらいを達成するために内容を精選する必要がある。主人公の立場だったらおつりについて正直に言えないという意見で、自分の都合を優先してしまう人間理解をもっと促せばよかった。促した後、「でもそれでいいの？」と追発問して罪悪感などを共有し、おつりについて正直におばあさんに言うことで、ねらいの正直に生きる喜びにつながるのではないかな。	

ックシートのような役割を期待して作成し、それぞれの教師ごとに実践した。一番の特徴としては、構想シートの④「生活と関連を意識させる発問」である。これは昨年度行った生徒向けの道徳に関するアンケート調査で、道徳の授業で学んだことを日常生活に役立ててられていない（役立てる場面がないと回答する）生徒が多いことが分かった。これは、道徳の授業が資料の中の世界で完結していることに起因することや、登場人物の心情を読み取るだけの発問になっており、自分事として考えさせる授業展開ができていないと考察した。そのため、授業のねらい達成のために、授業後半において資料から離れ、生徒自身の問題として改めて考えさせる活動が必要であるという結論に基づいたものである。構想シートの④によって、資料を離れて生徒自身の生活に触れるような展開が確実に行われるように意図したものである。

(3) 共通ワークシートの作成と実践

昨年度の研究の成果を全職員で共通理解し、通年実践するために授業ワークシートを作成した。作成したシートと赤字で示した記入例を以下に示す。

前橋市立第一中学校 道徳科ワークシート記入例

内容項目 (A・B・C・D) - (22) よりよく生きる喜び

第2学年 教材名 足袋の季節

2年 組 番 氏名 _____

道徳とは、より良い生き方についてみんなで考える授業

めあて、人間って〇〇。(〇〇には何が入る?)

めあてに対する最初の考え

人間って〇〇だけど、□□だ。(〇〇には何が入る?)

めあてに対する最後の考え

学習指導要領の内容項目を教師が解釈し、生徒がここにどのように書いてくれるとねらいが達成できたことになるかを吟味して課題（めあて）を提示する

発問「おばさんがくれた心」というのはどのようなものだと私は考えているのだろうか？

主発問は、最初からすべて書いてあると先に考えてしまう生徒がいることが予想されるので「 」の中を空欄にしておいて、教師の発問の際にワークシートに書かせるのが望ましい。

振り返り 「今までの自分は」、「これからの自分は」という言葉を意識して振り返りましょう。

ワークシートの元⇒青画面→校務分掌→2024 年度→05-5 R6 道徳

ワークシート作成後の保存場所⇒青画面→校務分掌→2024 年度→05-5 R6 道徳→構想シートおよびワークシート保存場所はこちら

る回答を生徒自身に最初に考えさせることである。続いて、授業の終末においてもめあてに対する考えを回答させる。また、振り返りでは、「今までの自分」、「これからの自分」という例文を提示した。これらの特徴は先ほどの（２）で述べた通り、生徒が道德での学びを実感し、日常生活に生かすための手立てである。生徒にとっては、最初の自身の考えと終末での自身の考えを比較することを通して、道徳的価値の深まりや広がりを実感できるように工夫した。

（４）授業構想シートと共通ワークシートの蓄積

授業を担当した教師が作成した授業構想シートおよび共通ワークシートを学校の財産として共有してアーカイブ化をしていくこととした。

PC > 第一中学校 (H:) > 6000-校務分掌 > 2024年度 > 05-5 R6 道徳 >				
R6 道徳 後の構 (1) 自 年	名前	更新日時	種類	サイズ
	作成後の構想シートおよびワークシート保存場所はこちら	2024/05/02 14:08	ファイル フォルダー	
	道徳ワークシートもと.docx	2024/05/02 13:59	Microsoft Word 文書	39 KB
	道徳構想シートもと.docx	2024/06/06 11:15	Microsoft Word 文書	68 KB



第一中学校 (H:) > 6000-校務分掌 > 2024年度 > 05-5 R6 道徳 > 作成後の構想シートおよびワークシート保存場所はこちら >				
A-1 自主、自律、自由と責任 A-2 節度、節制 A-3 向上心、個性の伸長 A-4 希望と勇気、克己と強い意志 A-5 真理の探究、創造 B-6 思いやり、感謝 B-7 礼儀 B-8 友情、信頼 B-9 相互理解、寛容 C-10 遵法精神、公德心 C-11 公正、公平、社会正義 C-12 社会参画、公共の精神 C-13 勤労 C-14 家族愛、家庭生活の充実 C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実 C-16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土愛 C-17 我が国の伝統と文化の尊重、国 C-18 国際理解、国際貢献 D-19 生命の尊さ D-20 自然愛護 D-21 感動、畏敬の念 D-22 よりよく生きる喜び	名前	更新日時	種類	サイズ
	A-(1) 自主、自律、自由と責任	2024/05/02 9:59	ファイル フォルダー	
	A-(2) 節度、節制	2024/05/02 9:59	ファイル フォルダー	
	A-(3) 向上心、個性の伸長	2024/05/02 9:59	ファイル フォルダー	
	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	2024/05/02 9:59	ファイル フォルダー	
	A-(5) 真理の探究、創造	2024/05/02 10:00	ファイル フォルダー	
	B-(6) 思いやり、感謝	2024/05/02 10:00	ファイル フォルダー	
	B-(7) 礼儀	2024/05/02 10:00	ファイル フォルダー	
	B-(8) 友情、信頼	2024/05/02 10:01	ファイル フォルダー	
	B-(9) 相互理解、寛容	2024/05/02 10:01	ファイル フォルダー	
	C-(10) 遵法精神、公德心	2024/05/02 10:01	ファイル フォルダー	
	C-(11) 公正、公平、社会正義	2024/05/02 10:01	ファイル フォルダー	
	C-(12) 社会参画、公共の精神	2024/05/02 10:01	ファイル フォルダー	
	C-(13) 勤労	2024/05/02 10:02	ファイル フォルダー	
	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	2024/05/02 10:02	ファイル フォルダー	
	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	2024/05/02 10:02	ファイル フォルダー	
	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土愛	2024/05/02 10:04	ファイル フォルダー	
	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国	2024/05/02 10:04	ファイル フォルダー	
	C-(18) 国際理解、国際貢献	2024/05/02 10:04	ファイル フォルダー	
	D-(19) 生命の尊さ	2024/05/02 10:05	ファイル フォルダー	
	D-(20) 自然愛護	2024/05/02 10:05	ファイル フォルダー	
	D-(21) 感動、畏敬の念	2024/05/02 10:05	ファイル フォルダー	
	D-(22) よりよく生きる喜び	2024/05/02 10:05	ファイル フォルダー	

5 授業実践例と研究の成果・課題

(1) 授業実践例

主題名 人間の気高さ (D-22 よりよく生きる喜び) 「明日を生きる 日本文教出版 風に立つライオンより」

ねらい：自分が理想とする夢を実現するために、失敗を恐れて躊躇する気持ちに屈せずに、自分が正しいと思うことをあきらめずにやり遂げようとする

実際の構想シート

前橋市立第一中学校 道徳科授業構想シート

研修主題

自律した一人の人間として、主体的な判断の下に、他者と共によりよく生きる生徒の育成
～道徳的な価値理解を深め、考え、議論する道徳の授業実践を通して～

内容項目(A・B・C・**D**)-(22) よりよく生きる喜び 第3学年 教材名 風に立つライオン

学習指導要領の価値項目をもとに授業者が構想した「ねらい」を達成したと考える生徒の姿(記述)

自分が理想とする夢を実現するために、失敗を恐れて躊躇する気持ちに屈せずに、自分が正しいと思うことをあきらめずにやり遂げようとする

ねらいを達成するための手立て

①問題意識をどのようにもたせるか(アンケート、ロールプレイ、説話、写真の提示など)

① あなたは今幸せですか? ② ①で「はい」と答えた生徒はその理由を教えてください。

③ ①で「いいえ」と答えた生徒はその理由を教えてください。

④幸せに生きている人ってどのような人でしょう

②ねらいを達成するための発問

「辛いと言えれば嘘になるけどしあわせです」つらいことと幸せなことってどんなことでしょう

③ねらいを達成するための発問(主発問)

「風に立つライオンでありたい」とはどのような生き方を言うのだろうか。

④生活との関連を意識させるための追発問

◆みんなにとっても「風」ってあるんじゃない? ◆自分にとっての風に立つライオンの姿とは?

⑤自己を見つめ、自分との関わりで考える発問の工夫(心情メーターの活用など)

悩んだ末、彼はアフリカへ行くことを決断しました。あなたが彼だったらアフリカに行く? 行かない?

⑥物事を広い視野から多面的・多角的に考え深める道徳の授業の工夫(シンキングツールの活用など)

アフリカへ行くことを決断したときの恋人の気持ちは。彼の決断に恋人の立場のあなたは賛成? 反対?

⑦授業を振り返って(授業後に授業者が記述)

気高い生き方を本時では、幸せに生きている人という解釈で授業を進めた。幸せな人について

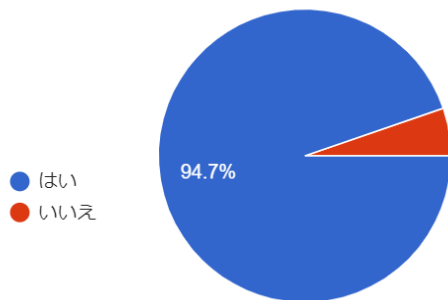
アンケートをとると、笑顔な人、楽しんでいる人、充実している人などの回答があった。

授業を進めるうえで、主人公の生き方を追うことで夢を追い求める生き方も幸せの1つのとらえ方だという気づきが生まれた。

(2) 授業の導入で Google フォームを用いてのアンケート調査とその結果

① あなたは今幸せですか？

19 件の回答



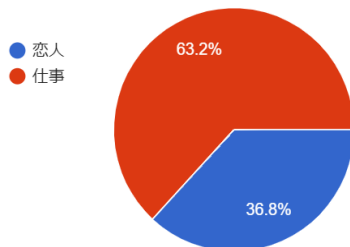
② ①で「はい」と答えた生徒はその理由を教えてください。

18 件の回答

普通に生活しているから
ご飯が美味しいから
健康で楽しく生きられているから
友達がいるから
ママの唐揚げが食えるから
たのしい
嫌なことがないから
何気ない日常が送れているから

④ 仕事と私どっちが大事なの！！ってよくあるセリフですね。あなたは恋人か仕事か どっちを選択しますか

19 件の回答



⑤ ④で恋人を選んだ生徒はその理由を教えてください。

7 件の回答

！
仕事よりパートナーを大切にしたいから
人との繋がりがあの方が生きていく上で楽しい。会話ができる
そっちの方が幸せに生きれると思うから。
やっぱり大事
仕事はやり直しがきくけど恋人はやり直しがきかないと思うから
会話ができる

⑥ ④で仕事を選んだ生徒はその理由を教えてください。

12 件の回答

恋人でも言ってしまうと他人だしその質問をされた時点で冷める
職を無くす方が嫌だから
恋人なんぞ別れてしまえば他人だから。
だいじ
仕事の方が失った時がしんどいから
安定したお金がないと自分だけでなく恋人も幸せにできないから
恋人は新しく作れるけど仕事はなかなかみつからないから
仕事を頑張って沢山金を貰って貯金
仕事が無くなったら暮らしていけないから

⑦ 幸せに生きている人ってどのような人でしょう

19 件の回答

笑ってられる人
不安や不満がない人
命に危険がない日々
自分のやりたい事ができている人
楽しく過ごせている人
何事も楽しんでいる人
恋人がいる人
楽しんでる
笑顔が多い人

(3) 生徒が記入したワークシート

前橋市立第一中学校 道徳科ワークシート 内容項目(A・B・C・D)-(22) よりよく生きる喜び

第3学年 教材名 風に立つライオン

3年

道徳とは、より良い生き方についてみんなで考える授業

めあて、幸せに生きている人とはどのような生き方だろう めあてに対する最初の考え ・不自由なく暮らせている	幸せに生きている人とはどのような生き方だろう めあてに対する最後の考え ・沢山の辛いことを乗り越えて、自分の夢を叶えた人
--	--

◎あなたが主人公の立場だったら 最初の考え	行かない ← 行く 理由 ⇒ 夢を叶えたいけれど、彼女とも別れたくない
◎あなたが主人公の立場だったら 話し合い後の考え	行かない ← 行く 理由 ⇒ 人よりも頑張っている沢山の人が助けた方がよいと思うから

◎あなたが彼女の立場だったら 最初の考え	反対 ← 賛成 理由 ⇒ 彼の夢を叶えてほしいから
◎あなたが彼女の立場だったら 話し合い後の考え	反対 ← 賛成 理由 ⇒ 沢山の人を救うてほしい

発問「風に立つライオン」とはどのような生き方を言うのだろうか。
・どんなに辛いことや辛いことに会っても、乗り越えていくこと
・どんなことにも挑戦していくこと

振り返り 「今までの自分は」、「これからの自分は」という言葉を意識して振り返りましょう。
・今までの自分は、辛いことから強さを付けていたけれど、今回の学習で、どんなに辛いことでも、自分の夢を叶えるためには、それと向き合っていくことにより、より良い生き方ができるのだと思った。これから、自分の夢を叶えるためなら、どんなことにもあきらめず、挑戦していきたい。



前橋市立第一中学校 道徳科ワークシート 内容項目(A・B・C・D)-(22) よりよく生きる喜び

第3学年 教材名 風に立つライオン

3年

道徳とは、より良い生き方についてみんなで考える授業

めあて、幸せに生きている人とはどのような生き方だろう めあてに対する最初の考え ・自由に暮らしている人	幸せに生きている人とはどのような生き方だろう めあてに対する最後の考え ・夢がある人
---	--

◎あなたが主人公の立場だったら 最初の考え	行かない ← 行く 理由 ⇒ 夢が叶えたいから
◎あなたが 彼の立場だったら 話し合い後の考え	行かない ← 行く 理由 ⇒ 日本にいる人

◎あなたが 彼女の立場だったら 最初の考え	反対 ← 賛成 理由 ⇒ 夢が叶えられるから
◎あなたが 彼の立場だったら 話し合い後の考え	反対 ← 賛成 理由 ⇒

発問「風に立つライオンとはどのような生き方を言うのだろうか。」
・自分の夢を叶えること

振り返り 「今までの自分は」、「これからの自分は」という言葉を意識して振り返りましょう。

今までは、その夢を叶えたい人かと思ってたけど、
改めて考えると、自分の夢を叶えるために、みんなの力を借りて
叶えたいという考えがあることに気が付いた。
色んな経験が、考えられるようにしたいです。



(4) 成果と課題

本資料である風に立つライオンは、海外医療に従事することを夢見る日本人の「僕」が念願のアフリカの大自然の中の小さな診療所で働くことになった。その3年後、日本で別れた恋人から結婚を告げる手紙が届き、「僕」はさまざまな思いを交錯させる話である。

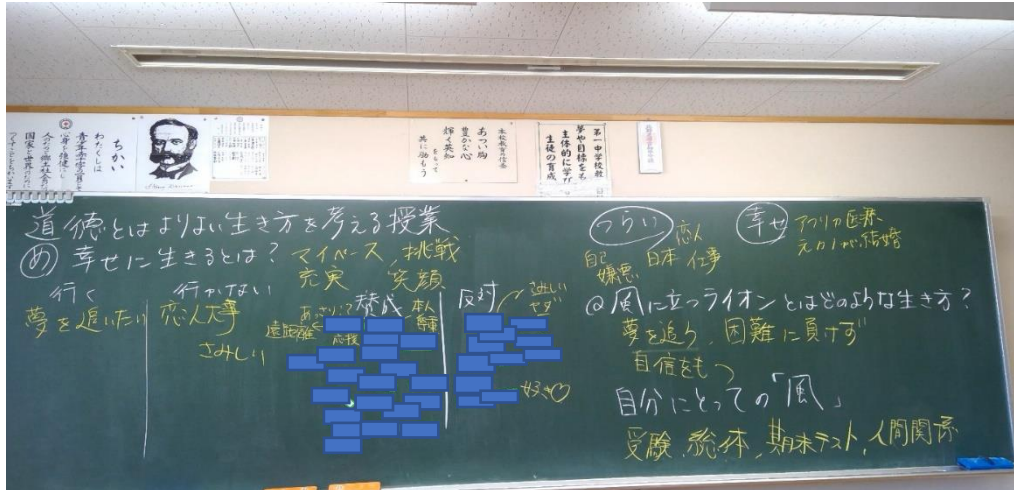
成果

本時のめあてを「幸せに生きている人とはどのような人か」に設定した。導入時の幸せについての自身の考えと、授業終末での幸せについての自身の考えが、両生徒とも「夢を追う人」に変容したことがわかる。これは、自分が理想とする夢を実現するというねらいを達成した姿と考えることができる。また、振り返りにおいては、つらいことから逃げていた自分、それ乗り越えていくことで幸せを追求していくこと、などという道徳的価値についての広がりや深まりを読み取れる記述が見られた。これは、失敗を恐れて躊躇する気持ちに屈せずに、自分が正しいと思うことをあきらめずにやり遂げようとするねらいを達成した姿と考えることができる。これは、本研究である、他者とよりよく生きる生徒の育成につながったものと考えられる。

課題

あなたが主人公だったら、仕事か恋人どちらかを選びますか？というような展開にしたが、生徒にとっては、働いたことも結婚を前提とした恋愛の経験もないので自分事として本当にとらえられていたのか難しいところであった。

(3) 授業後の板書



(4) 授業のようす



6 参考文献

【参考資料】

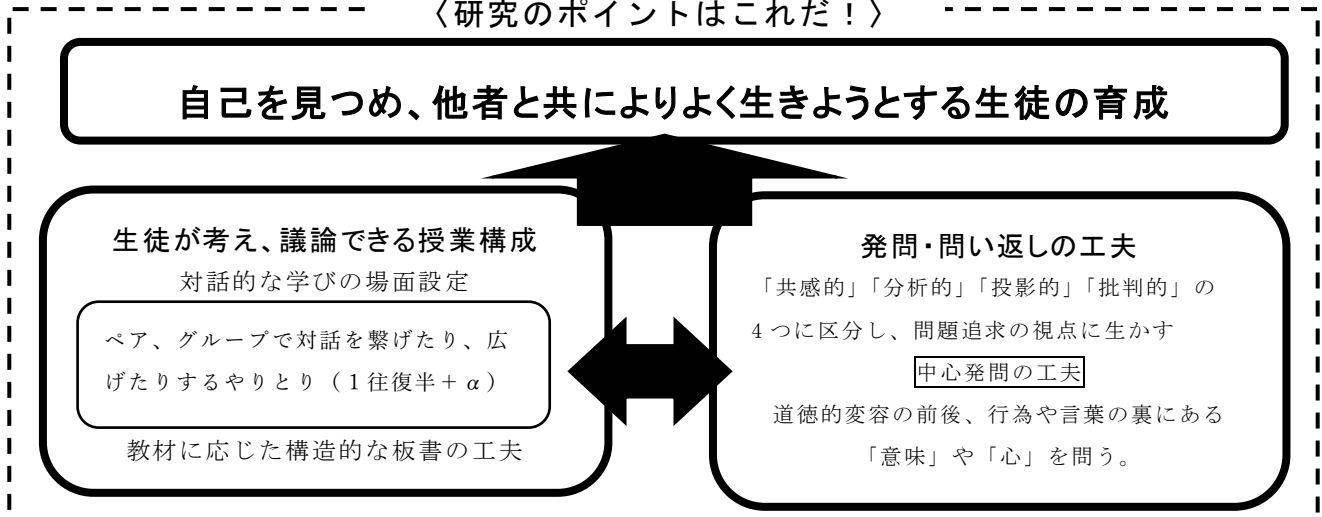
- ・ 栃木県教育委員会「考え、議論する道徳」の授業づくり（中学校段階）
https://doutoku.mext.go.jp/pdf/guidedocument_178.pdf
- ・ 平成28年度第15回初任者研修 愛知県教育委員会道徳教育総合推進サイト
https://doutoku.mext.go.jp/pdf/guidedocument_176.pdf
- ・ 文部科学省「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf
- ・ 宮城県総合教育センター どうとくサポートブック
https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/doutoku/sbook/img/11_tamentakaku.pdf
- ・ はばたく群馬の指導プランⅡ 群馬県教育委員会

自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成

—生徒が考え、議論する授業構成、発問の工夫を通して—

館林市立多々良中学校 大曾根 麻衣子

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 主題設定の理由

道徳が教科化され、道徳授業や道徳授業の評価を行うことが本校でも定着してきた。本校では、担任が中心となって授業を実施したり、学年や学期によって副担任も交えたローテーションを組んだりしている。評価方法は学校全体で共通しており、担任や副担任からの様々な視点で生徒の変容を見取り評価をしている。どの教科の授業でも、ペアやグループで自らの意見を発表し、交流する場面があるため、生徒は順番に発表したり意見交流したりすることが自然にできている。しかし、道徳の授業では意見を発表・交流することが流れ作業のようになってしまっており、「考え、議論する」までに至らず、考えを深めることができない場合がある。生徒が「考え、議論する道徳」の実践のためには、自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合いながら考えていくことが大切である。そこで、道徳的価値について考えを深めるために、多面的・多角的な考え方に繋がる対話的な学び場面の設定や発問・問い返しの工夫をすることが大切だと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

多面的・多角的な考え方に繋がる対話的な学び場面の設定や、発問・問い返しの工夫をすることを通して、「考え、議論する道徳」の実現と、自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を図る。

3 研究の内容

（1）発問・問い返しの工夫

①発問の立ち位置を工夫し、多面的・多角的な考え方に繋げる。立ち位置によって「共感的」「分析的」「投影的」「批判的」の4つに区分し、それを問題追求の視点に生かすことで「考え、議論する道徳」の実現を図る。（永田、2017）

②道徳の変容の前後、行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

（2）対話的な学びの場面設定

ペア、グループで対話を繋げたり、広げたりするやりとり（1往復半＋α）

（3）教材に応じた構造的な板書の工夫

①板書計画では、黒板を区分けしてそこに書く大まかな内容を決めておく程度にとどめる。授業では、生徒の言葉に耳を傾け、思考を紡ぐことを心がける。生徒が板書を見ながら話し合いをしたり、話し合いを振り返ったりすることができるような板書、生徒と一緒につくる板書を目指していく。

②板書は、生徒の発言の文脈を図案化させ、黒板を1枚のワークシートのように使うよう心がける。(縦書きと横書きは混在することもある。)

【縦書き】心情の変化に焦点を当てたいとき。時系列を追うように整理し、右から左へと学習が進んでいくようにする。

【横書き】迷いや葛藤などの心情に焦点を当てるときや、複数の立場への理解を促すとき。いくつかの考えを比較したり分類したり、関係性を見いだしたりする活動のとき、表や図、矢印などを柔軟に組み合わせられるようにする。

4 実践の概要

実践1

(1)教材名 「背筋をのばして」 『新訂 新しい道徳3』東京書籍(2021年)

(2)内容項目 C(14)家族愛、家庭生活の充実

(3)主題名 家族の支えがあるから

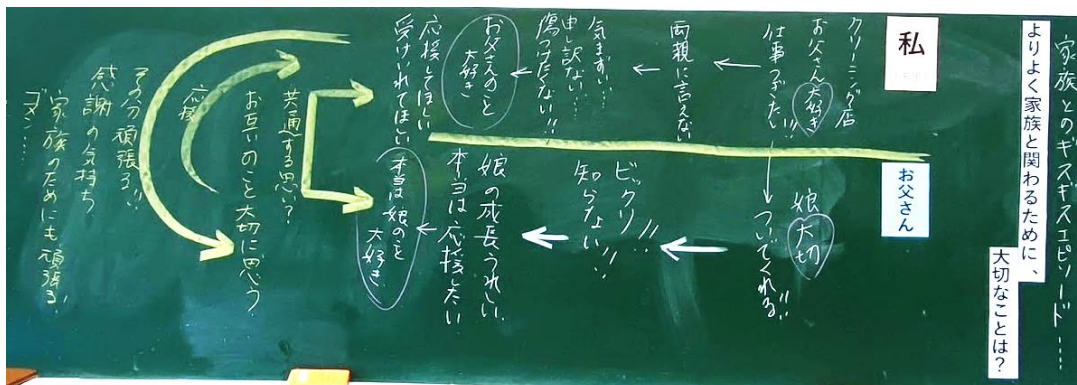
(4)展開

共感的な発問「共」、分析的な発問「分」、
投影的な発問「投」、批判的な発問「批」

	学習活動(○発問、◎主発問)	生徒の姿(ロイロノート記述、発言内容)
導入	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) ○家族と自分の関係の中でモヤモヤすること(上手くいかないこと、すれ違いなど) くめあて>よりよく家族と関わるために、大切なことは何だろう？	・言われなくてもわかっているのに行動しようと思ったときにに言われる。 ・勉強してるのに休憩しているところを見られると怒られる。 ・お互いの意見が食い違って喧嘩する。 ・細かいことをいちいち言われる。 ・自分が一生懸命やっていることを簡単そうに言う。 ・自分の気持ちをわかってくれない。
展開	2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) ○私(千里)とお父さんのそれぞれの本音を考えてみよう。 対話的な学びの場面設定 〈本音にせまる話し合い質問カード〉 私(千里)の本音 ○なぜ家族に夢について言い出せなかったのか(「分」) ○お父さんに対してどのような思いか(「共」) お父さんの本音 ○娘の夢に対して賛成か、反対か(「分」)	ずっとクリーニング屋を継ぐと言っていたから、今から夢が変わったことを言ったら家族が怒ったり反対されたりしないか心配だったから。 お父さんに懂れてきたことは事実だけど、自分の新しくできた夢は否定しないでほしい。 ・もともとは、お父さんのクリーニング屋を継ぐと言ってしまっていたから、変えたことを伝えたら悲しんでしまう ・自分の夢を素直に応援してほしい ずっと自分のクリーニング屋を継ぐものだと思っていたから、いきなり新しい夢を言われて驚いている。継いでくれないことは悲しいけど、夢は応援したい。 少しショックだけれど洋服関連のこと夢にしてくれたことは少し嬉しかった。 →本当は、お互いを大切に思い合っている。どんな時

	○お父さんはどのくらい傷ついているのか（「分」） ◎私(千里)は、家族へどのような思いをもって家を離れたのだろう。 「共」 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（10分）	も主人公のことを大切に思い、真剣に考えてくれていることが伝わる。主人公も家族へ感謝の気持ちが高まった。 自分の夢を応援してくれてありがとう。自分の好きなようにさせてくれてありがとう。家族の思いを無駄にしないように精一杯頑張ろう。 家族の気持ちも考えつつ、自分の意見をしっかりと言い、家族と向き合って話し合うことが大切だと思った。 - 自分の思っていることをしっかり伝えないといけないと感じた - 思春期、反抗期を言い訳にしないで大切なことを伝え忘れないようにする
終末	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。（10分）	友達よりもやっぱり気を使おうとか考えることが少ない家族の方が関係については難しいと思った。でも、家族だったら応援してほしいし、自分も応援したいと思うから、素直な気持ちを忘れずに持とうと思った。 進路など親と話し合うことが多くなるしそれでぶつかってしまうこともあるだろうけれど、感謝の気持ちを忘れないことや相手の気持ちを考えることは忘れてはいけないと思った。

〈縦書き：心情の変化に焦点を当て、時系列を追うように整理し、右から左へと学習が進んでいくようにした。〉



実践2

- (1) 教材名 「缶コーヒー」 『新訂 新しい道徳3』東京書籍（2021年）
- (2) 内容項目 C(10) 遵法精神、公德心
- (3) 主題名 次世代のいない手として
- (4) 展開

共感的な発問「共」、分析的な発問「分」、
投影的な発問「投」、批判的な発問「批」

	学習活動 (○発問、◎主発問)	生徒の姿(ロイロノート記述、発言内容)
導入	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。（5分） ○学校や社会の中で気になる ＜めあて＞誰もが気持ちよく生活していける社会にするために、大事なことは？	→廊下で大騒ぎしている人 →歩きながらタバコを吸う人 →家の近くで大きな声でおしゃべりする人

展開

2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分)

○3人の言動・行動についてどう思うか。

「批」

○缶コーヒーがこぼれたとき、自分が「私」の立場であつたらどうするか。

「投」

自分が主人公の「私」であつたらど、

物主も気持ちを伝ふる

主人公は物主の立場をとる
謝罪している
観念し

◎誰もが気持ちよく電車で過ごすためにどうしたらよいのか。それぞれの立場で考えよう。

「分」

対話的な学びの場面設定

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(10分)

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分)

→「私」相手が謝っているからと、謝罪したり伝える事を諦めたりしてはいけないと思う。もっと言うべきことは強く言うべき。

→「竹内さん」主人公を助けてあげてほしい。

→「女性」急いでいたかもしれないが、きちんと謝罪ができていない。気持ちが伝わってこない。

主人公と同じような行動をとる。

みんな朝から忙しく、その人の時間の邪魔をしてしまうかもしれないから。
毎回朝会うかもしれない人と気まづくなりたくないから

しっかり相手に伝える。

自分だけではなく周りの人にも被害が出ているから自分が言うってどうにかなるなら言うべき

(3) 班 もしあなたであつたらどんな言動をするか、それぞれの立場になって考えてみよう！			
	言葉 セリフ	行動	その理由
私	「缶コーヒー落ちますよ」	・大きな声 ・ジェスチャーも入れて	被害をなくするため
女性	「ごめんなさい。なにか私にできることはありますか？」	・イヤホンの音を下げる ・心のこもった謝罪	私に少しでも嫌な気分させないため
竹内さん	「缶コーヒー落ちそうですよ」 私と一緒に言う	・私を助ける ・一緒に片付けをしたりする	私をフォローするため

強く言うべきだが、トラブルに発展すれば周囲の人も迷惑してしまう…

私が自分の意志が弱くて強く女性に言えなかったように自分の意思を弱く持たず、1つ1つの出来事に関わった人全てが思いやりつつ強い意志を持つことが誰もが気持ちよく生活していける社会にするために大事だと思った。

終末

相手の気持ちを考えたり、先のことを見越して行動することが大切であると思いました。私達は人間なので失敗を絶対に防ぐことはできないからこそ、失敗したときにどのようなアクションを起こすべきなのかをしっかりと考えるべきだと思います。

〈横書き：迷いや葛藤などの心情に焦点を当て、複数の立場への理解を促したとき。いくつかの考えを比較したり分類したり、関係性を見いだしたりする活動のとき、表や図、矢印などを柔軟に組み合わせられるようにした。〉

(め) 誰もが気持ちよく生活していくために... (P88) 缶コー-

中3の生活の中...
 思っている
 家の前でかいこいでいる
 うるさい。(おれあがり)

「私」
 ハッキリとあっていい!
 声をかけたけど、あきらめ...
 自分で言えず、あきらめ...
 耳が痛い...

竹内さん
 イヤホン×音量
 悪くない、缶そのまま...
 あやまり利ない。

女性
 悪くない、缶そのまま...
 あやまり利ない。

→ガマンするのも、強く言いすぎるのも...
 どうしてか良いのか?
 誰もが気持ちよく生活していくために...

一緒に聞く。
 「私」も気持ちよく伝える。
 代わりのあやまり。
 一緒に聞く。
 クリーニング代。

5 研究の成果と今後の課題

成果

発問を「共感的」「分析的」「投影的」「批判的」の4つに区分し、それを問題追求の視点に生かすことで、自分自身の考えや思いを明らかにしたり、主人公の心情や考えを明らかにしたりしやすくなった。発問の立ち位置を明らかにすることで、生徒自身も多面的・多角的に考えることができていた。話し合いも活発になり「考え、議論する道徳」に近づくことができた。

板書計画では、黒板を区分けし、そこに書く大まかな内容を決める程度にとどめた。授業中に生徒の言葉に耳を傾け、生徒の言葉で思考をつなぐように板書することを心がけた。図案化するようにも心がけ、枠、吹き出し、矢印、図、などを組み合わせた。生徒が板書を見ながら話し合いをしたり、振り返りを記入するときに板書をじっくりみたりする生徒の姿がみられた。

振り返りの場面では、「友達より気を遣おうと考えることが少ない家族との関係の方が難しいと思った。家族に応援してほしいし、自分も家族を応援したいから、素直な気持ちを忘れずにもとうと思った。」、「相手の気持ちを考えたり、先のことを見越して行動したりすることが大切であると思いました。私たちは人間なので失敗することは絶対にあるし、防げないからこそ、そのときどうするかを考えていきたい。」という記述がみられた。自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合いながら考える生徒の姿が見られたことから、「自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成」につなげることができたと考える。

課題

- ・教材中で主人公の気持ち等の変容が起きた、感動が呼び起こされたポイントにもっと迫り、行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問えるようにしたい。教材の仕掛けを生かした中心発問を設定したい。
- ・振り返りの交流が少なく、もっと終末にも対話の場面を設定したい。
- ・今後も黒板全体を一枚のワークシートのように使い、生徒が板書を見て話し合いを振り返るようにしていきたい。

6 参考文献

【教材資料・出典】

- ・『新訂 新しい道徳3』東京書籍（2021年）

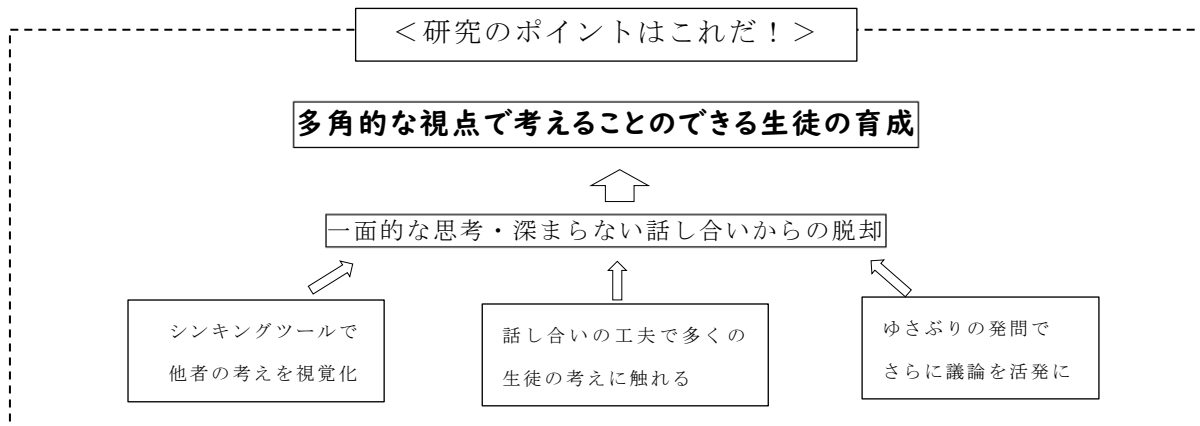
【参考資料】

- ・中学校学習指導要領 解説 「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
- ・はばたく群馬の指導プランⅡ 第2章 各教科等の授業づくりの基本
「特別の教科 道徳」（群馬県教育委員会）
(http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?page_id=40)
- ・私たち教員の意識改革と柔軟な発想で、「考え、議論する道徳」の具現化を（永田繁雄）
(https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-board/VIEW21_kyo_2017_03_all.pdf)
- ・日文教育資料「道徳のひろば No. 37」板書のこだわりや工夫（木村純也）

自己の生き方や考え方を見つめ直すことのできる生徒の育成

—多角的な視点で捉える話し合いの方法や発問の工夫を通して—

明和町立明和中学校 久保田 湧己



1 主題設定の理由

本校では、今年度より「主体的・対話的に学び、課題を解決できる生徒の育成」というテーマで校内研修に取り組んでいる。「させる」授業から「する授業」への転換を目指し、生徒が主体性をもって授業に取り組めるような授業改善を行っている。道徳科では、ローテーション授業を実施しており、担任以外の教員が授業をすることで生徒の多様な考えや思いを引き出せるようにしている。ただ、実際の授業では、自分の考えを周りに合わせてしまう、いつも決まった生徒の意見しか発表されない、話し合いが意見の発表に終始し、考えが深まる議論ができていないといった実態が見られる。こういった中では、生徒は一部の意見しか取り入れられず、問題を多角的に捉えられていないと考えられる。そこで、シンキングツールを活用したり、話し合いの方法や発問を工夫したりすることで、主体的に他者の意見と自分の考えとを比較し、自分の考えを明確にするとともに、多様な考えにふれることで、問題をより多角的に捉えることができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

シンキングツールの活用、話し合いの工夫、発問の工夫で、明確に自分の考えをもつとともに、多様な考えに触れて自分の考えを見つめ直すことができるようにする。

3 研究の内容

- (1) シンキングツールを活用し、全体の思考を視覚化できるようにする。
- (2) 非公式な話し合いの場の設定により、話し合いに対しての抵抗感を減らす。
- (3) ゆさぶりの発問により、多様な考えを引き出し、新たな考えに触れられるようにする。

4 実践の概要

○教材について（対象学年：2年）

- ①主題名 「よりよい社会のために」（指導内容 C(10) 遵法精神・公德心）
（関連する指導内容 A(1) 自主、自律、自由と責任）
- ②教材名 「宝塚方面行き-西宮北口駅」（出典 東京書籍「新しい道徳2」）
- ③ねらい

電車内のミサとおじいさんとのやりとりを通して、公共の場での適切な言動を考え、公德心を持って行動しようとする態度を育てる。

④教材の内容と解釈

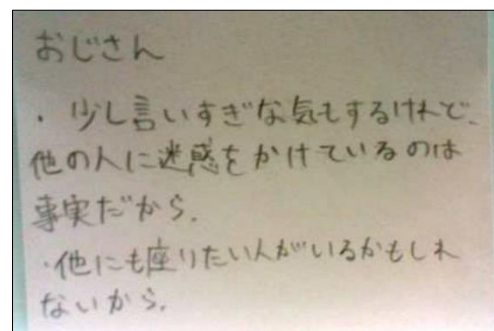
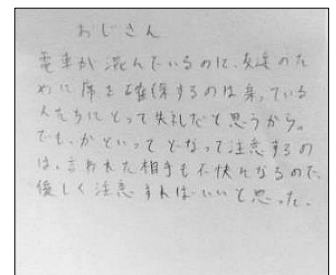
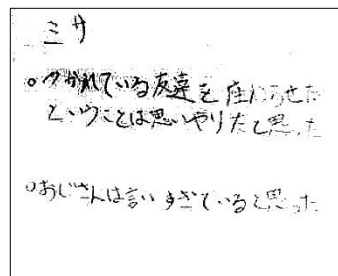
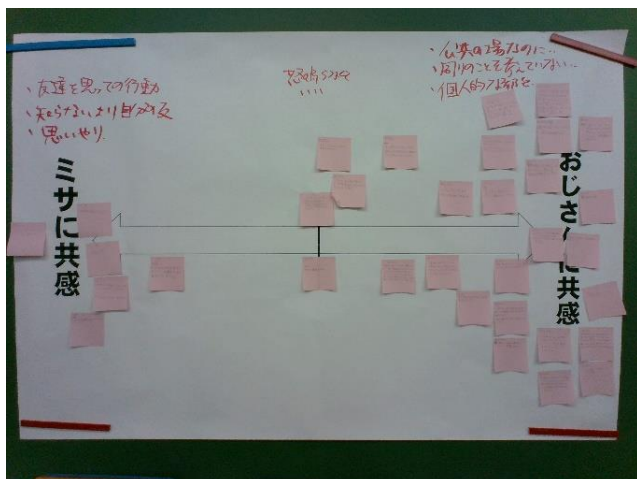
電車内で自席の隣に自分の鞆を置いて友達のマユミの分の席取りをしていたミサは、突然おじいさんに怒鳴られてしまう。「友達より先に乗っている人がたくさんいるのに、後から来た友達がその席にしたら座るのはおかしい」という。ミサは友達が疲れた状態で来ることを説明するも、「あんたが席を替わったらいい」と言われてしまう。後からマユミも合流するが、おじいさんの怒りは収まらず、このままでは学校に言いつけられると思ったミサはマユミと共に電車を降りた。ミサの行動を否定的に捉えてしまいがちだが、自分にも同じような経験はないか想起させながら、共感できるようにしていくとともに、おじいさんの行動や周りの人物の心情についても考えたい。

⑤主な発問（中心発問は◎）

- ◎ミサとおじいさん、それぞれの考えに共感できますか。また、それぞれのとった行動は正しいと思いますか。
- どんな場合でも席に荷物を置くことはいけないことなのでしょうか。
- マナーを守る上で、考えるべき大切なことはなんですか。

（１）シンキングツール（座標軸）の活用

これまでの授業では、問いに対しての自身の考えは文章化し、それをロイロノート等で共有する形をとることが多かった。その場合、考えを文章で表すのが得意な生徒と、そうでない生徒とで差が生まれてしまい、他の生徒とどの程度、考えが一致しているのか、どの程度異なるのかが分かりづらかった。今回は座標軸を用いることで、自身の立場を明確にしたうえで、全体の傾向を視覚化できるようにした。また、タブレット上での共有は、操作に時間がかかってしまったり、意図しない誤操作が起こったりすることを考慮し、本実践では模造紙を用いて、付箋に記入したものを生徒が貼りに行くという形をとった。全体で同じものを用いることで、課題に意識を向けさせるとともに、考えを視覚化させた。



(2) 話し合いの方法の工夫

機械的に割り振ったグループでの話し合いは、能率的に意見交換や話し合いができる反面、本音で話し合えなかったり、深まった議論ができなかったりする。そこで今回は、グループワークをするのではなく、あくまで自分が話しやすい環境で話し合うことができるよう、生徒主体で話し合いの場を作れるようにした。最初は、自分の席の周辺にいる人と話をし、後半では、教室を歩き回って話しやすい人と話ができるようにした。また、発表の際は座席に戻らず、話をした人同士で固まっている状態で発表する形をとった。

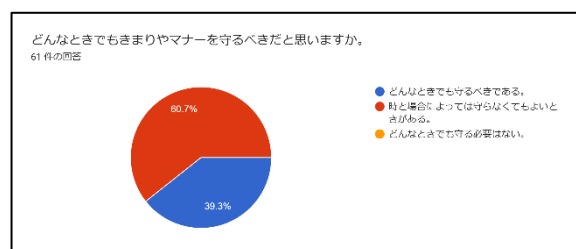
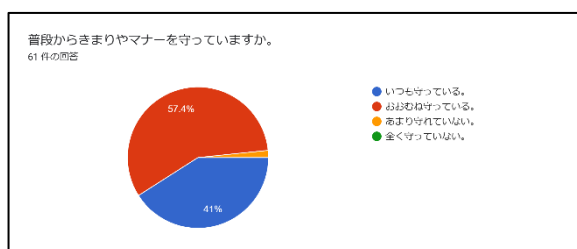


(3) ゆさぶりの発問で考えを深める

二つの立場のどちらに共感するかという問いに対しては、正しいとされる行動をとった人物の立場に偏ることが予想できる。そこで、生徒に新たな視点や考えをもたせるために、倫理的に正しくないと思われる行為が、どんな場合であっても正しくないと言えるのかどうかを考えられるようなゆさぶりの発問を行う。具体的には、「荷物を置いて席取りをするという行為はどんな場合でもしてはいけないのか。」という発問をする。その後、事例をもとに行為の正当性について考え、改めてマナーの在り方について考えを深められるようにする。事例について考える際も、教材での発問と同様、どちらの立場に共感するかを問い、立場を明らかにしたうえで、その理由について話し合えるようにした。

(4) その他

導入では、事前アンケートを実施し、問題意識をもって授業に取り組めるようにした。



5 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

(1) シンキングツール（座標軸）の活用

○座標軸の活用は学級内の考えの偏りを視覚化するうえで有効であった。シンプルな形だからこそ、生徒もすぐに理解することができていた。

○貼り出されたものを熱心に見る生徒の姿が見られた。

●全体の傾向が分かりやすい反面、全ての席から文字が見えるわけではないので、一人一人の考えを共有するということが難しかった。それぞれの意見の共有を図るのであれば、ICTの活用があるとよい。また、机を移動して、教室の真ん中で模造紙を広げるという手もある。

●自由なタイミングで貼らせると、その傾向を見て考えを変えてしまう生徒が出てくるので、列ごとの順番にするか、一斉に貼らせるかの工夫が必要だった。

(2) 話し合いの方法の工夫

- 話しやすい人と話すことで、本音を引き出すことができていた。普段、意見を伝えることが得意でない生徒も、仲の良い友人と活発に考えを交流することができていた。
- 人数や話し方に制限がないことで、大人数、少人数の様々な形態で議論を深めることができた。
- 本音で話し合い、議論できているグループもあったが、意見交換のみに終始してしまうグループもあった。時間を区切って他の生徒と話したり、話し合ったことをもとにグループで再度議論をする形をとったりしても良かった。
- 話し合うテーマを精選すべきだった。「様々な場面で周りの人のことを考える必要がある」ということを考えさせるために、教科書の例と実社会での例とを比較し、どう考えるか自由に意見交流をしても良かった。

(3) ゆさぶりの発問で考えを深める

- 行為の正当性について、新たな視点で考えることができた。実例を示したことで、より生徒にとって身近なものとして考えることができた。
- 教科書の状況と似ているが、見方を変えると、考え方も異なることを実感できた。
- 最終的には、生徒の生活に基づく事例を挙げられるとよかった。自分事として考えるために、学校生活での例を挙げて考える時間が必要だった。
- 別例を示して、それについて考えるだけでなく教科書の状況との共通点や相違点、考え方などを比較し、検討する時間があると良かった。

(4) その他

- 学級は、自由に意見を述べやすく、活発に意見交流ができる雰囲気が作れていた。考え、議論する道徳の授業のためには、日頃の学級経営において、仲間の発言を受容すること、互いに認め合うことを大切にする雰囲気作りが大切。
- 導入でのアンケートの提示は、問題意識をもたせるために有効であったが、抽象的な表現に留まっていたので、アンケート結果の後に、具体的な例示をするべきだった。
- 生徒の振り返りでは、以下のような内容が多く見られた。「マナーを守るうえでは、相手の立場に立って気持ちを考えることが大切」ということを多くの生徒が実感できていた。反面、「マナーは守らなくてもよいときがある」といった内容も散見されたので、まとめ方については注意をする必要がある。

◇きまりやマナーを守るうえで大切にすべきことはなんだろう。

誰かが嫌な思いをしないようにするため。周りの様子を見て判断することかな。

☆振り返り

「マナーを守らなければいけない」のは当たり前だけど、「なぜ守らなくてはいけないのか」を考えることによって、マナーを守るうえで大切にしなければならないことが分かった。「周りの人のことを考えたマナー」を守りたいと思った。

☆振り返り

ルールを守っているからという理由でみんな迷惑。おぼろげ、おぼろげというおぼろげな理由で他人の立場から考えてみることで、ルールを考えた。

☆振り返り

マナーやルールを守るのは当たり前だけど周りの人の気持ちや、状況を考え行動することは大切だと分かった。

6 参考文献

【教材資料】

- ・『新しい道徳 2』東京書籍

【参考資料】

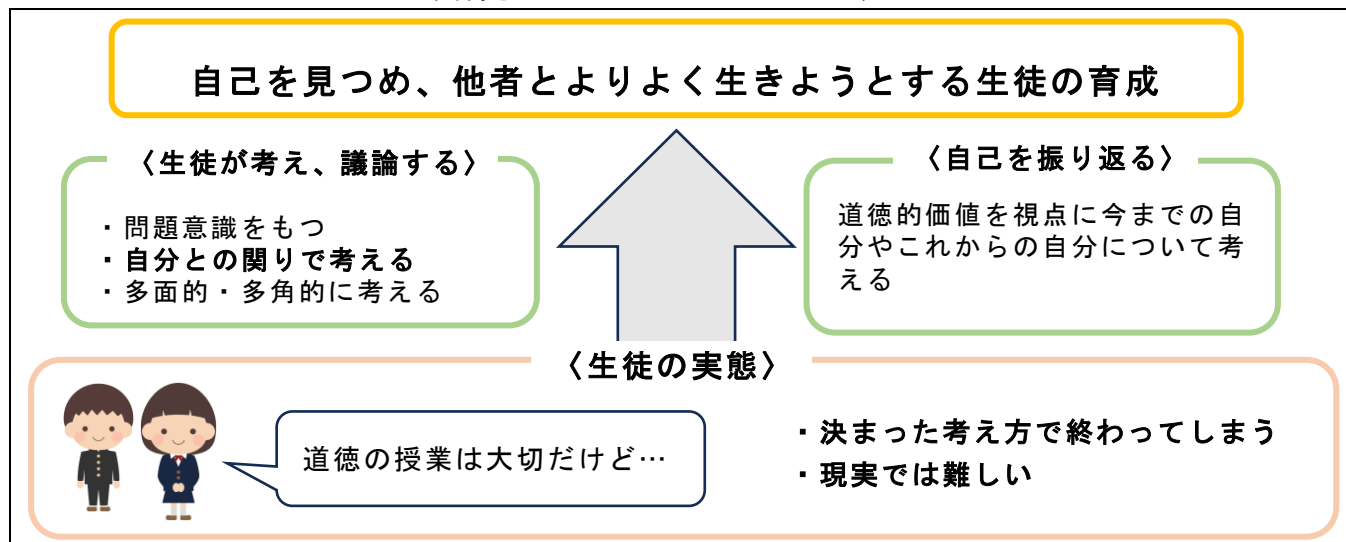
- ・『はばたく群馬の指導プランⅡ』群馬県教育委員会義務教育課
- ・『はじめよう！道徳科』『ふかめよう！道徳科』群馬県教育委員会

自己を見つめ、他者とよりよく生きようとする生徒の育成

—自分との関わりで考える「生徒が考え、議論する道德」の授業改善を通して—

みなかみ町立みなかみ中学校 小野 露葉

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 主題設定の理由

本校の生徒は、道德の授業について大切なことは分かっているが、受け身の姿勢になっている生徒や、道德的価値については、理解していても生活に繋がらない生徒がいる。この道德的価値の理解のために授業者の工夫も必要になってくると考える。

また、今年度の本校の研修主題は「見通しをもって学び、自分の考えをもとに追究する生徒の育成」、副主題は「各教科における『ゴールの姿』にせまるための『対話的な学び』の工夫を通して」である。道德科でも他者と対話し協働しながら考えることが必要になってくる。このことから、自分との関わりで考える「考え、議論する道德」の実現に向けた授業改善が必要であると考えた。

そこで、生徒が自分事として考えられるよう発問を工夫するとともに多様な意見の交流を通して、他者とよりよく生きようとする生徒を育成したいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

生徒が自分との関わりで考えることができるような発問や対話的活動を工夫することで、道德的価値に対する考えを深め、自己を見つめ、他者とよりよく生きようとする実践意欲や態度を育てる。

3 研究の内容（方法）

(1) Google フォームを活用し、生徒の実態や変容を把握する

- ・導入の場面において生徒に道德的価値について問題意識をもたせる。
- ・授業後半やまとめの場面において生徒に道德的価値について問題意識をもたせ、授業前との考え方の変容を捉えられるようにする。

(2) 対話に繋がるためのワークシートの工夫

- ・文章だけでなく表情など、視覚的にわかりやすく考えを表現することで、対話を促す。

(3) 振り返り活動

- ・これまでの自己を振り返り、今後の自分にどのように生かせるか、生かしていきたいかをまとめる。

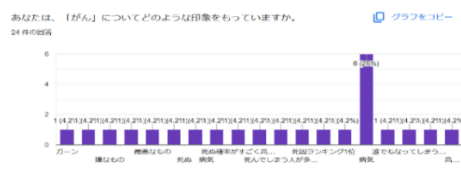
4 実践の概要

【実践1】

内容項目：D(19) 生命の尊さ

教材名：余命ゼロ～命のメッセージ～

本時の学習

導 入	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○自分の命について考える。  T：命についてどのような印象がありますか。 S：大切なもの、無くなったら終わり  T：学校が楽しくない、つまらないと思っている人がいますがなぜだと思いますか。 S：勉強がつまらないから、なんとなく  【テーマ】自分の生き方について、考えよう。 【ポイント】 生徒の実態把握ができた。 
展 開	2 教師の教材文の範読を聞く。 3 教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○主人公である渡部さんはどんな人なのだろうか。 S：小学五年生から新聞配達、定時制高校、社長、55歳で借金返済、これから62歳余命一年半 ○余命宣告をされた渡部さんはどんな気持ちだったでしょう。 S：絶望的な気持ち、投げやりな気持ち 1. 余命宣告された渡部さんの気持ちを考えよう。 表情  今まで何のために働いてきたのかわからない 表情  もっと生きたい！ 死にたくない！！ うとだ... 自分のことしか考えていなかったから ○妻の話を聞いてしばらく何も言えなかった渡部さんの心の内はどうだったでしょう。 S：心配してくれている人がいるんだな。 ◎渡部さんはどのような思いで講演を続けたのでしょうか。 S：生徒達には、一度しかない人生を前向きに生きてほしい。 S：死は不安だ。限られた命を大切にしたい。 【ポイント】 表情の変化に気付かせることで、心情がどのように変化したか確認できた。

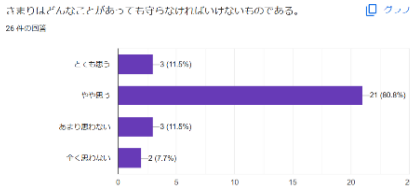
	【ポイント】 表情について質問することを通して多様な考えに触れることができた。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。 T: 命について考えたことや、渡部さんの生き方から学んだことはなんですか。 S: 命は限りあるものだからこそ、大切にしていきたい。 S: 軽い命はない。自分の生き方を見つめ直したい。
終末	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 S: 命について、大切なものだと思っていたが、自分の生き方について深く考えたことはなかった。身近にもがんの人はいなかったが、渡部さんの生き方から、改めて一度きりの命だから大切に生きたいと感じた。

【実践2】

内容項目：C（10）遵法精神、公德心

教材名：二通の手紙

本時の学習

導入	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○規則やきまりという言葉についての印象を共有する。  T：規則についてどのように思いますか。 S：ないほうが過ごしやすい。 S：破ったら怒られる。 S：大切なもので、守らなければいけない。 【テーマ】きまりやルールは、何のためにあるのだろう。 【ポイント】 生徒の実態把握ができた。  <table><thead><tr><th>印象</th><th>件数</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>よく守る</td><td>3</td><td>(11.5%)</td></tr><tr><td>やや守る</td><td>21</td><td>(60.8%)</td></tr><tr><td>あまり守らない</td><td>3</td><td>(11.5%)</td></tr><tr><td>全く守らない</td><td>2</td><td>(7.7%)</td></tr></tbody></table>	印象	件数	割合	よく守る	3	(11.5%)	やや守る	21	(60.8%)	あまり守らない	3	(11.5%)	全く守らない	2	(7.7%)
印象	件数	割合														
よく守る	3	(11.5%)														
やや守る	21	(60.8%)														
あまり守らない	3	(11.5%)														
全く守らない	2	(7.7%)														
展開	2 教師の教材分の範読を聞く。 3 教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○2人を入園させたとき元さんはどのようなことを思っていたか。 S：今日だけならいいか S：理由がありそうだから仕方ない															

○ 2 人の子どもを入園させた元さんの行動に、賛成か、反対か、その理由は何か。

S : 賛成 (子どもがかわいそう)

S : 反対 (ルールには意味がある、安全面で問題がある)

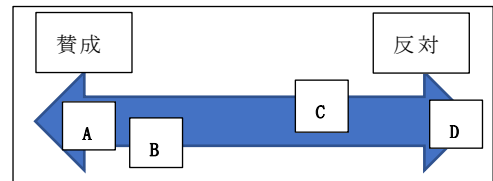
ネームプレートを貼る

【ポイント】

肯定、否定の両方に
問い返しを行う。

【ポイント】

板書で心を可視化
する。



◎ 二通の手紙を前に、元さんが気付いたこと、
考えさせられたことはどのようなことでしょうか。

〈気付いたこと〉

感謝されたらいいって
きまりを解るのが、いいって
思ってた。

〈考えたこと〉

お礼にならなくて...
何となくよかった。

〈気付いたこと〉

自分は今でも、きまりを
守るっていい、正しいって
思ってた。でも、きまりを
守るって、みんなの安全を
守るって思ってた。

〈考えたこと〉

他の人から見ると、きまりを
守るって、いいこと、悪いこと
って思ってた。でも、きまりを
守るって、みんなの安全を
守るって思ってた。

【ポイント】

これまでの生活できまりを守らずに迷惑をかけたことはなかったか。
また、そのときどう思ったか。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。



T : 「きまりやルール」は何のためにあると思いますか。

【ポイント】

アンケートの再集計

S : きまりはみんなが気持ちよく、安全に過ごすために必要なものである。



終
末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

S : 私も同情の気持ちで子どもを入園させることに賛成だったが、同情の気持ちで行動
してしまうとどうなるのか考えることができた。私は、一時の感情だけで行動せず
に、きまりを守り、適切な判断ができるようになりたいと思った。

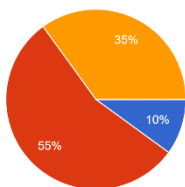
変容

授業前

きまりは守るべきだとい
う生徒が増えた！

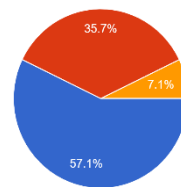
授業後

きまりはどんなことがあっても守らなければいけないものである。
19 件の回答



● とても思う
● やや思う
● あまり思わない
● 全く思わない

きまりはどんなことがあっても守らなければいけないものである。
14 件の回答



● とても思う
● やや思う
● あまり思わない
● 全く思わない

授業前

きまりは厳しくてめんどくさいもの
守らないと誰かに注意される。

授業後

一時の感情で動いてしまうと、周りに
迷惑をかけてしまう。
安全に過ごすためには、必要なもの

5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

生徒が自分事として考えることができるような発問や対話的活動を工夫することで、道徳的価値に対する考えを深めることができた。

(1) Google フォームを活用し、生徒の実態把握

○アンケートを活用することで、生徒の実態を把握することができ、授業で考えさせたい道徳的価値について自己との関りを明らかにすることができた。【実践1】【実践2】

(2) 対話に繋がるためのワークシートの工夫

○表情について質問し交流することで、友達の考えに関心をもち、質問し合いながら自分の考えを深めたり、多様な考えに触れたりすることができた。【実践1】

○生徒の见えない心を可視化することで、同じ意見をもつ生徒同士の交流だけでなく、異なる考えをもつ生徒と自ら進んで意見を交換する姿が見られた。【実践2】

(3) 振り返り活動

○表面的な感想から具体的な自分の行動に対する振り返りが増えてきた。

【実践1】【実践2】

○導入と同じアンケートを実施し、考え方の変容を可視化したことで、自分自身の考えを見つめ直し、道徳的価値について自分の考えを深めることができた。【実践2】

〈課題〉

生徒が自分事として考えることができた一方で、より深く考えられるようにするためには、教師のゆさぶりや問い返しが発問の工夫に課題が見られた。

〈今後工夫していきたいこと〉

○目的に応じてワークシートや ICT を使い分けることが大切である。今回はワークシートを使用して交流を行ったが、全体交流の場面では、簡単に共有することができる ICT を目的に応じて使用することで、生徒の考えを一斉に共有することができると考える。

○生徒が思考する場面で、教師がゆさぶりや問い返しなどの発問をどの場面で行うか、具体的に考えておくことで、生徒が考えを深め、さらに自分事として捉えることができると考える。補助発問の考え方を情報共有し、効果的な発問について職員でも研修していきたい。

6 参考文献

【教材資料・出典】

「新・中学生の道徳 明日への扉」学研

【参考資料】

中学校学習指導要領 解説「特別の教科 道徳編」

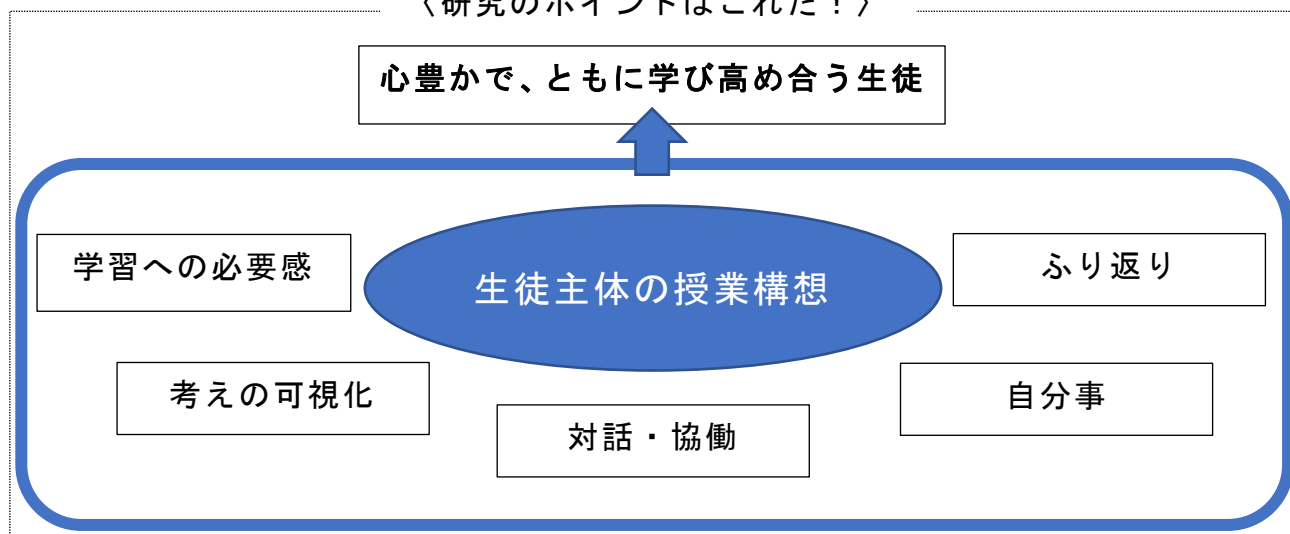
群馬県教育委員会「はばたく群馬の指導プランⅡ」

心豊かで、ともに学び高め合う生徒の育成

－生徒の思いや発話に基づく、生徒主体の授業構想を通して－

中之条町立中之条中学校 佐藤 博

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 主題設定の理由

現代の社会は、テクノロジーの進化によって、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な「VUCA（ブーカ）時代」と呼ばれる社会になっている。これから生徒たちが中学校を卒業した後の社会は、今以上に将来の予測が困難な時代となっていることも考えられる。このような「VUCA 時代」で、生徒が幸せな人生を歩めるようにするには、従来のような教師が問いを考えて主導する授業構想ではなく、生徒が自ら問いを生み出し、生徒の問いに基づいた対話・協働を中心とした授業構想をしていく必要がある。そこで、生徒自らが学習の主体者となり、自分自身や友達との対話を通して、新しい価値や納得解を生み出す力を高める授業構想をしたいと考える。

以上のような力を身につけられるように、研究主題を「心豊かで、ともに学び高め合う生徒の育成」とし、副主題を「生徒の思いや発話に基づく、生徒主体の授業構想を通して」とした。

2 研究のねらい

道徳的価値に対して、生徒一人ひとりの考えや立場を明らかにし、生徒の問いに基づく対話・協働を通して、自身の考えを深めたり、広げたり、新しい価値を生み出したりする授業構想をする。

3 研究の内容

- (1) 学習への必要感 めあてに対して学習することへの必要感がもてる導入の工夫。
- (2) 考えの可視化 ICT, シール, 名札等を活用して、生徒一人ひとりの考えや立場がすぐに分かるような提示の工夫。
- (3) 対話・協働 道徳的価値に対して、生徒一人ひとりが気になっていること（問い）を対話・協働することを通して、新しい価値や納得解を生み出す工夫。
- (4) 自分事 対話・協働を通して生み出した考えを基に、道徳的価値を自分事として考えられるような発問や資料提示等の工夫。

(5) 振り返り 授業での生徒の学びが表現できるように、時間制限以外の制限は付けずに行う。また、振り返りの記述を参考に、授業改善にもつなげる。

4 実践の概要

- (1) 主題名 「心の弱さを乗り越えるために」 内容項目 D- (2 2)
- (2) 教材名 「銀色のシャープペンシル」(出典：新しい道徳 東京書籍)
- (3) ねらい 物語の中で「心の弱さ」に対して一番心に残ったところを選んだ理由を対話することを通して、人間は誰にでも心の弱さがあることに気づき、自分の弱さを乗り越えていこうとする心情を育てる。
- (4) 準備 教科書、教材文の拡大コピー、ワークシート、シール、ホワイトボード
- (5) 本時の展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	○指導上の留意点						
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) 本時の学習への必要感 「心の弱さ」について考える必要感がもてるように、生徒の実態把握のために行ったアンケート調査の結果を活用した。 S : みんな嘘をついてしまったり、ごまかしたりしてしまうことがあるんだな。 心の弱さは、どんな気持ちからくるのか考えよう。	○中心発問に対する生徒の話し合いの時間が多く取れるように、教材文は朝読書の時間などを使って事前に読んでおく。 ○本時は「心の弱さ」について考えればよいことを見通せるように、事前に行った内容項目に関するアンケート調査の結果を提示する。【★提示】 言い訳をしたり、嘘をついてしまったり、ごまかしてしまったり正直に言えなかったことがありますか？ <table border="1"> <caption>アンケート調査の結果</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正直に言えなかったことがある</td> <td>82.6%</td> </tr> <tr> <td>いつも正直に言っている</td> <td>17.4%</td> </tr> </tbody> </table> ○授業後の意見の変容に生徒自身が気付けるように、めあてに対しての最初の考えをワークシートに記述する。	回答内容	割合	正直に言えなかったことがある	82.6%	いつも正直に言っている	17.4%
回答内容	割合						
正直に言えなかったことがある	82.6%						
いつも正直に言っている	17.4%						
2 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(30分) ◎「心の弱さを考えたときに、一番心に残ったところとその理由は何でしょうか。」	○生徒一人ひとりの意見を生かし、同じ教材文を読んでも多様な考えがあることが分かるように、一番心に残ったところを黒板に提示した教材文にシールを貼り、生徒の意見を可視化する。 生徒一人ひとりの考えを可視化 教材文の中で、めあてに対して生徒が一番心に残ったところを選び、生徒の考えを可視化する。この考えが問いになる。						

S：「これは前に自分で買ったんだぞ。」の場面では、主人公は嘘をついて言い逃れをしようとしていて、自分にも似たような経験があったから。

S：「シャープペンシルを卓也のロッカーへ」の場面では、何とか友達にバレない様にごまかそうとして、みんなから嫌われないようにしたと思ったから。

S：卓也からの謝罪の場面では、正直に謝ってくれた卓也に対して主人公は申し訳なさや自分の過ちに気が付いたから、卓也の家に謝罪に行こうと思ったんじゃないかな。卓也はすごい。



◇「主人公は自分から言わなければいけないのに、どうして卓也の家に謝りに行ったのでしょうか。」

S：本当のことを言わないと、後悔すると思ったから。

S：嫌われてしまうかも知れないけど、モヤモヤした気持ちのままだといたくないと思ったんじゃないかな。

3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(10分)



S：ごまかせばモヤモヤした気持ちのままだし、正直に言うと嫌われてしまうかもしれないな。

S：これからは気持ちよく生活できるように、失敗してしまったときには正直に言って、後悔がないようにしていきたいな。

○生徒一人ひとりが教材文に対して自分事として捉えられるように、自分が心に残ったところについてその理由を問いかける。

○教材文の同じところを選んでいても、選んだ理由には多様な考えがあり、自分の考えを広げられるように、シールを貼った場所が近い人同士でグループを作り、各自の考えの共通点を基に登場人物の気持ちについて対話することを促す。

○グループの対話を可視化し、多様な意見を知ることができるように、各グループの話合ったことをホワイトボードに書いて可視化したり、発表したりする。

対話・協働で納得解を生み出す

付箋に書かれた理由を基に「そのときの登場人物の気持ち」について話し合った。

○主人公の心の変容が可視化できるように、各グループの意見を「主人公の心の弱さ」と「卓也の謝罪」との対比から「卓也の家に謝罪に行く」ことになったことを整理して板書する。

○心の弱さはどんな気持ちからくるのか気付けるように、グループの意見の共通点を問いかけ、本時のまとめとする。

○自分に恥じない生き方について考えを深められるように、ごかまして生きていくことと正直に言うことのデメリットについて問いかける。

自分事として考える

対話・協働を通して考えたことを基に、「自分に恥じない生き方」についての自分なりの考えを記述した。

○自分なりの生き方を大切に、相手の生き方も尊重できるように、意図的な指名は行わずに発表をする。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(5分)

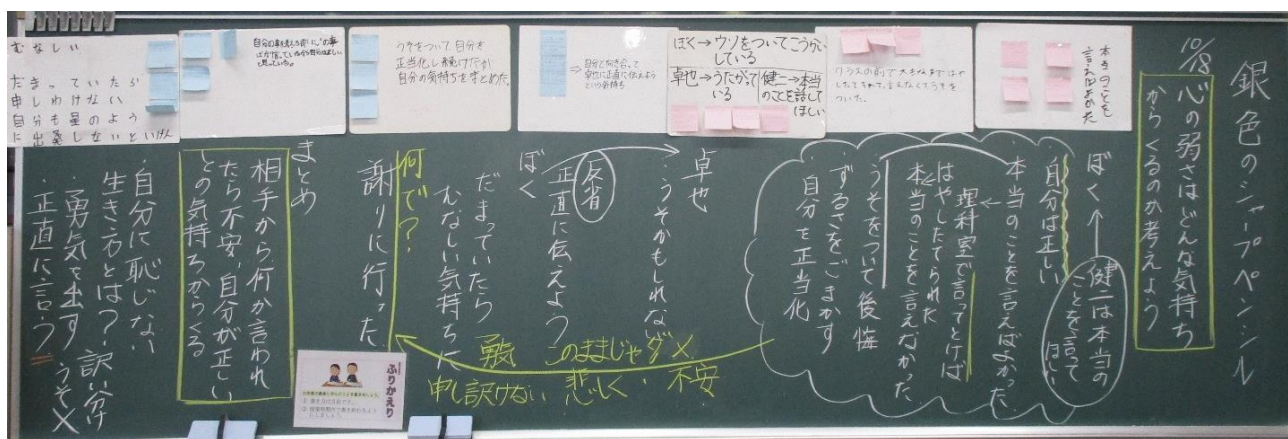
○本時の授業について生徒の本音を引き出せるように、時間制限以外の条件は付けず振り返る。

<振り返り> S：前に嘘をついてごまかしてしまったことを今でも後悔している。この後悔はこれからも続くかもしれないけど、少しでも悪いことをしてしまったときには、正直に言って後悔がないようにしたい。

振り返り

生徒の学びの姿が見取れるように、生徒が授業で学んだことについて自由に記述する。

(6) 本時の板書



5 研究の成果と今後の課題

生徒一人ひとりの考えや立場を可視化して対話・協働をする授業構想を通して、次のような生徒のふり返りの記述が見られた。「今まで自分がしたことを認めます。親や友達にうそをついて、自分を正当化していました。でも、今回の授業で、やはりうそはよくないことを知りました。そうは言っても、人に正直なことを言うのは不安でいっぱいですが、怒られる嫌われるからと言って、うそをつくともっとそうになってしまうと思うので、これからは自分の気持ちに正直になろうと思いました。」このことから、生徒は道徳的価値について自分事として捉え、今までの自分の姿をふり返り、自分に恥じない生き方をしようとする思いを高めた様子が分かる。その一方で、道徳的価値を実現する難しさも実感している。

また別の授業実践では、「最初、この話を読んだときは、A君のことを考えずに強制的でかわいそうだから出ない派だった。けれど、他の意見を聞いて話し合いをしてるうちに、だったら両方やればいいのか？という意見が出て、それに賛成だったから最終的には出る派になった。両方が納得できるような答えを出していったほうがよいと思った。」というふり返りの記述が見られた。対話・協働を通して、自身の考えを深めたり、広げたり、新しい価値を生み出したりする姿が見られた。

今後は、授業中に道徳的価値について理解した後、生徒がより自分事として捉えられるような発問や資料提示の工夫等を研究していきたい。

6 参考文献

嶋野道弘／青木芳弘／齋藤博伸『授業は変えられる』東洋館出版（2024）

嶋野道弘『学びの哲学』東洋館出版（2018）

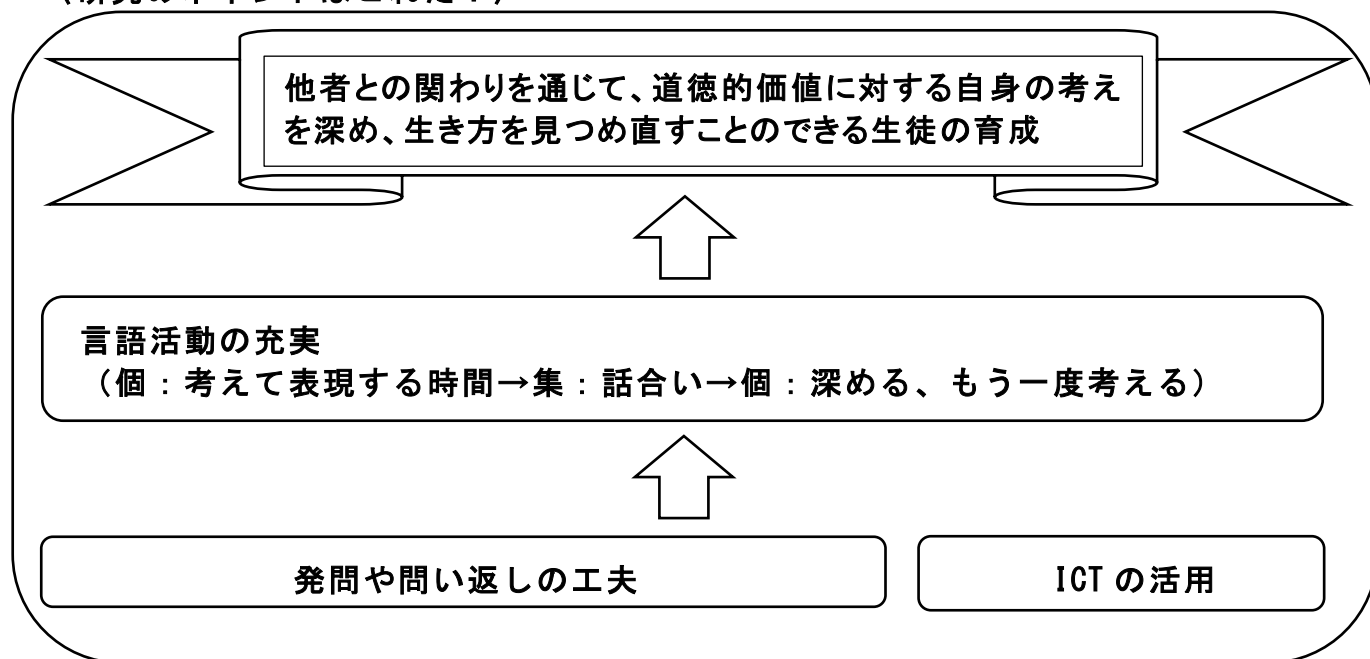
道徳教育編集部『道徳教育 2024年7月号』明治図書（2024）

道徳的価値に対する自身の考えを深め、 生き方を見つめ直すことのできる生徒の育成

－発問や問い返しの工夫による言語活動の充実を目指して－

高崎市立群馬南中学校 二ッ橋 萌香

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」には、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となるような道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」という目標が示されている。さらに、指導計画の作成と内容の取り扱いに関して、「2(4)生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。」とある。

自校で授業実践を重ねる中で、学級の生徒は、与えられたテーマについての自分なりの意見を持ち、話し合いを活発に行うことはできているが、交流後も道徳的価値の理解に深まりが見られない生徒もいる。その要因の一つとして、発問の幅の狭さや、般化する過程での補助発問やゆさぶり方に課題があると感じている。

そこで、他者との交流を通して道徳的価値の内面的資質を高めていけるよう、生徒の言語活動の時間の確保に向けて ICT の活用をし、発問や問い返しの工夫をすることで言語活動の充実を図ることを本研究の主題とした。

2 研究のねらい

道徳的価値に対する自身の考えを深め、生き方を見つめ直すことのできる生徒の育成するた

めに、発問や問い返しを工夫しながら授業実践を行うことで、言語活動の充実を図り、その効果を明らかにする。

3 研究の内容

3-1 発問の工夫について

〈発問の立ち位置〉（高崎市教育センター「道徳科の授業づくりと主題構想について」）

主人公に自分を重ねる

A：共感的 「～はどんな気持ちか」

B：投影的 「自分が～だったらどう考えるか」

主人公を客観的に見る

C：分析的 「～が・・・したのはなぜか」

D：批判的 「～のことをどう思うか」

〈単文型と複文型 複文型で問う〉

生活と価値を往復させるために、自分たちの生活の中にある事実を取り上げて教材の世界と比較して複文型で問い、子どもたちの思考にずれを生み出す。（瀬戸山 道徳教育 No. 793 p. 23）

単文型：Aはなぜ したのだろう

複文型：○○○なのになぜAは～ したのだろう

〈「4W」「1H」で問う〉

目に見える現象（行為）から目に見えない心を考える方法としての「なぜ」発問がある。発問は、道徳的心情や道徳的判断力を養う上で非常に重要である一方で、答えの根拠は子どもたちの生活経験によることが多く、思考が拡散的になったり何について答えるのかが分かりにくくなったりする場合がある。（瀬戸山 道徳教育 No. 793 p. 22）

4 実践の概要

4-1

（1）主題名 よりよい社会のために

（2）教材名 宝塚方面行き 西宮北口駅

（3）ねらい 電車内でのミサとおじいさんとのやりとりを通して、公共の場での適切な言動を考え、公德心を持って行動しようとする態度を育てる。

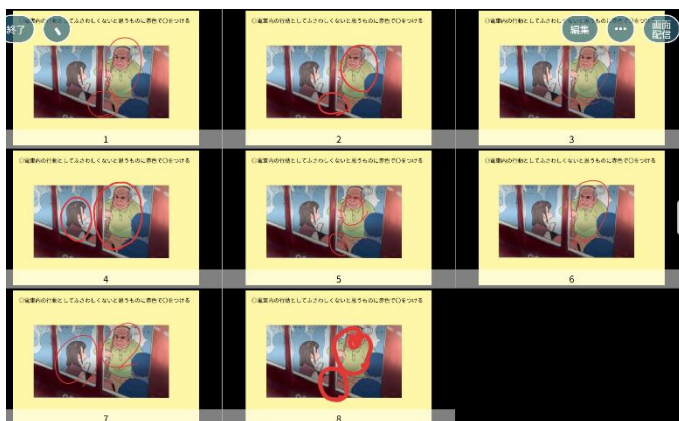
（4）本時の展開

①事前に考える・・・教材に使用されている場面の画像を提示し、電車内の行動としてふさわしくないと思うものとその理由について考える。「電車内の行動としてふさわしくないと思うものはどれか」また、車内の人の気持ちを想像して吹き出しに書き込む。生徒の実態を把握する・本時の問題の焦点化を図る 「4W」「1H」で問う

◎電車内の行動としてふさわしくないとと思うものに赤色で○をつける



◎車内の人の気持ちを想像して吹き出しに書き込んでみよう

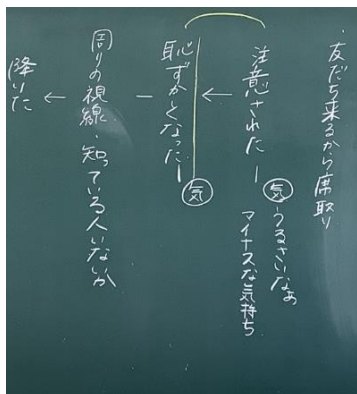


8人の生徒がおじいさんに問題があると考え、そのほかの生徒は学生（ミサ）やミサが置いたカバンに○をつけた。

両方を問題視している生徒もいた。

②物語を読む

③前提条件の整理・・・ICTを活用して写真や場面を整理



物語を読んだ後はミサの行動に焦点を当て、話を整理した。

④ミサの行動についてどう思うか考える。

（１）「ミサは自分の行動が悪いと分かっているのにどうして素直に認めることができなかったのか」複文型で問う

生徒の反応

- ・自分が悪いと認めることが恥ずかしい
- ・自分は友だちのために行動しているから
- ・自分が正しいと思うことで自分の立場を有利にしたい
- ・悪いと思うことは自分の行動を否定していることになるから

（２）「（１）のようなミサの行動に対してあなたはどうか」発問の立ち位置：D：批判的

- ・自分が悪いとしても人から注意されたら素直に行動を直すべき
- ・悪い行動を認め正した方がその後が楽
- ・自分がいいことをしていると思いつぎない方がよい

⑤中心発問：

「ミサやマユミはこれからどのようなことに気をつけて電車内で行動するだろうか」

生徒の反応

理由：おじいさんに怒られたくないから 行動：席取りはしない

周囲の人の迷惑になるから : 席取りはしない

周圀の人の迷惑にならないように : マナーを守る

怒られたくないから : おじいさんがいないか確認してから乗り込む

⑥ゆさぶり、追の問い

「ミサはおじいさんがいなければ同じ行動をするだろう、と思うかどうか」

「あなたはおじいさんのような人がいなければ同じような行動をするか」

「電車のような公共の場において大切にしたいことはどのようなことか」

「また、どうしてそのようなことを大切にしなければならないと思うか」

⑦授業の振り返り

「授業を通して考えたこと・感じたこと」

生徒の記述分析

まずは・・・

- ・ルールやマナーをあらかじめ理解しておくことが大切である
- ・自分が知らない当たり前があるかもしれないという視点をもつことが必要

行動

- ・自分の正しさや利益にしかない行動をしないようにする
- ・視野を広げることが大切
- ・周りの人のことも考えることが大切
- ・「みんな」が不快な思いをしないようにという思いをもつ
- ・注意されたら反省して行動に修正をするべきだと思う
- ・注意できるおじいさんはすごいと思う
- ・自分もおじいさんのような正しい主張ができるようになりたい
- ・気づかぬまま人を傷つけてしまっているかもしれないという視点をもつ

さらに・・・

- ・ できていない人を注意できるようになりたい
- ・ 「みんな」でルールを守るからこそ過ごしやすい環境は保たれると思う
- ・ 自分の正しさではなく誰から見ても正しい行動をとることが大切である

5 研究の成果と課題

〈成果〉

- ・問題の焦点化を図ったことで、立場を明確にして考えを深めることができた。
- ・具体的な発問をすることで、生徒に考えてほしいことを明確にできた。
- ・ICTの活用や前提条件の整理をすることで、主発問までを25分程度で進めることで問い返しの時間を確保し、道徳的価値観の理解を深められた。
- ・生徒の回答の中から、ゆさぶりの発問をし、全員でその考えについてさらに考えることが

できた。

- ・振り返りを道徳の時間内で終わりにせず、学級通信などを用いて日常生活と結び付けて話

できた。

〈課題〉

- ・ICT の効果的な活用として、図の提示の時点で場面を限定しても良かった。
- ・おじいさんが悪いと考える人がいた場合についての展開の見込みがあまりなかった。
- ・様々な立場の人がいることを踏まえた展開でもよかった。

6 参考文献

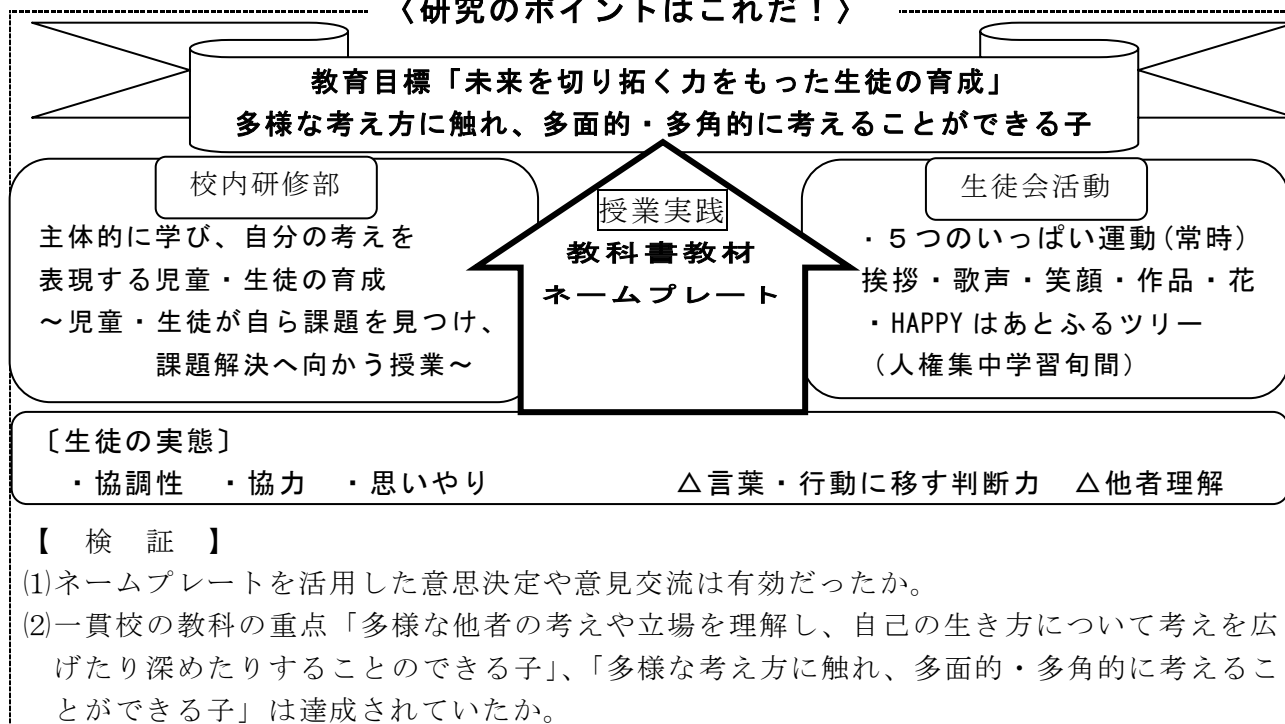
- ・中学校学習指導要領 解説「特別の教科 道徳編」(2017)
- ・高崎市教育センター 令和6年度新任道徳推進教師研修資料「道徳科の授業づくりのポイントについて」
- ・高崎市教育センター 令和6年度5年目経験者研修資料「道徳科の授業づくりと主題構想について」
- ・瀬戸山千穂 「A→B を叶える発問づくりの思考転換法」「問い方のバリエーションを増やして生活と価値を往復させる」明治図書『道徳教育 No. 793』(2024)

多様な他者の考えや立場を理解し、自己の生き方について考える授業

—教科書教材とネームプレートを活用した魅力的な授業の実践を通して—

藤岡市立西中学校 齋藤 裕美

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 主題設定の理由

本校は、校区の小学校3校と共に9年間一貫した目標・方法で学力向上を目指し、「未来を切り拓く力をもった生徒の育成」を西連携型小中一貫校教育目標と定め、すべての教育活動を展開している。

本校の生徒は、授業や清掃活動などの場面で互いに協力して取り組んだり、相手の立場を尊重して話を聞いたりすることができる。また、学校行事でも仲間の応援を精一杯行ったり、勝者を讃えたりと互いに認め合う場面が多く見られた。

一方、人の考えを聞いて自ら考えを深めたり、自分の考えに自信をもって自ら行動することができなかつたりと主体的に行動することが苦手な生徒が多いことが課題である。

そこで、本年度の西連携型小中一貫校では、「多様な他者の考えや立場を理解し、自己の生き方について考えを広げたり深めたりすることのできる子」、「多様な考え方に触れ、多面的・多角的に考えることができる子」の育成を目標とし、「自己決定」「他者理解」に重点をおいた道徳科指導の充実に努めている。

授業では、生徒指導の実践上の4つの視点（自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安全安心な風土）を授業づくりの土台とし、ネームプレートを活用しながら生徒の意欲を高める授業実践を行っている。ネームプレートを効果的に活用することにより、「ねらいにかかわる大事な場面で、自分で決める」「1人1人が認められ、活躍できる」「互いに認め合い、共に努力する」という場면을意図的につくり、互いのよさを認め・ほめ・伸ばす雰囲気の中で多様な考え方に触れ、多面的・多角的に考えることができる生徒の育成につなげたいと考えている。本研究では、教科書教材を用いた授業を基に、ネームプレートを活用した構造的な板書による思考過程の視覚化を図り、誰が実践しても目指す生徒像に近づける授業のモデルづくりを目指す。

また、毎年6月と12月を人権集中学習旬間とし、人権部会、道徳部会、生徒会の3部会で

連携を図りながら年2回の人権集中学習を行っている。ここでは生徒会を中心に全校で取り組むテーマを設定し、生徒主体の様々な取り組みを行う中で人権について考えさせている。生徒が主体となって人権について考える活動を通して、様々な価値観を尊重し、自ら考え、行動できる生徒の育成につなげたいと考えている。

この2つの活動を実践することで、目指す生徒像に近づくことができ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができると考えこの主題を設定した。

2 研究のねらい

ネームプレートを用いた効果的な授業実践をおこなうことで、多様な考え方に触れ、多面的・多角的に考えることができる生徒を育成できるかを、実践を通して明らかにする。

3 研究の内容

- (1) ネームプレートを用いた授業実践
- (2) 人権集中学習旬間のテーマに沿った道徳の実施

4 実践の概要

- (1) ネームプレートを用いた授業実践例

① 題材名「ひまわり」

本教材は、「生命の尊さ」を主題とした資料である。陸上自衛官の佐々木清和さんは、東日本大震災の津波で妻りつ子さん、中学2年生の娘の和海さん、りつ子さんの両親の家族全員を亡くした。佐々木さんは災害派遣活動をしながらも自暴自棄に陥る。しかし「はるかひまわり」に出会い育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がり、やがて語り部の活動を始め、現在も多くの人々に生命の尊さを語り継いでいる。

生徒を取り巻く環境の変化により、頭での「生命尊重」という漠然とした理解にとどまってしまう、実感を伴った生命の理解や思考に至らない現状が考えられる。「命は大切なものである」という一面に終始するのではなく、さらなる気づきや深まりを与えたい。

② ねらい

家族を失った後に災害支援活動をする場面と語り部を始める場面の清和さんの心情をそれぞれ座標軸にネームプレートを使って表し、その位置を選んだ理由を発表し合い、「ひまわり」を育てる意味を問うことを通して、生命の尊さや連続性、有限性に気付く。

③ 展 開

学習活動と予想される生徒の反応 ○基本発問 ◎中心発問 □補助発問	時間	指 導 上 の 留 意 点 ◎ネームプレート
1 本時のめあてをつかむ。 ○「生命」ってなんだろう。 S：大切なもの。かけがえのないもの。 ○東日本大震災を知っていますか。 S：津波や避難所の様子の映像をテレビで見たことがあるな。 S：怖かったと家族が言っていたな。	5	◇「生命とは何か」という問いを提示することによって、本題材を考える土台となる課題をつかませる。 ・東日本大震災に関連した写真を提示することで、多くの命が奪われた災害だったことを想起させる。精神的な負担を考慮し、取り扱う写真の選択には十分配慮する。
2 教材文の範読を聞き、佐々木清和さんの歩みを場面写真で確認する。 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。	35	◎座標軸に2種類のネームプレートを使って掲示することで、二つの場面の様子と清和さんの変化を視覚的に捉えられるようにする。

□家族を失った後に災害支援活動をする場面の清和さんの心の中を想像しましょう。座標軸にネームプレートを貼り、その理由を考えて発表しましょう。次に、語り部を始める場面の清和さんの気持ちを考えましょう。 S：家族を失った悲しみは想像するだけで悲しい。災害支援活動が続ける中でも心は深い絶望の中にいたのかな。 S：家族を亡くして4年後に語り部を始める気持ちがすごい。辛いことを語るのは心が痛いと思う。でも気持ちは少し上向きになったのだろうか。 ◎なぜ清和さんは「ひまわり」を育て続けているのでしょうか。色々思い出すことで辛さもあるはずですね。 S：清和さんにとっての「ひまわり」は、娘の和海さんや妻のりつ子さんの命そのもののなのかもしれない。 S：命は限りあるもので、家族を思い出して辛い、それ以上に希望をもらえるのかもしれない。語り継ぐことが、命をつないでいくことになるのではないかな。	◎ネームプレートの位置を基に、清和さんの心情や状況を想像して考える。また、他の箇所を選んだ友達の理由を想像し意見交流する中で、生命に対する考え方や意味を広げたり深めたりする。 ◇ネームプレートを貼って意見を示すことで、自身や友達の考え方を比較できるようにする。その際、意思表示が苦手な生徒が活動できるように支援する。 ◇意見交流の際に、自分の意見と友達の意見を比較しながら傾聴する。その際、相違点や共通点をとらえることで、考え方や理解を広げる。 ◇「ひまわり」を育て続けている理由や、清和さんが今も語り部を続ける理由を問うことで、清和さんの原動力の「生命のつながり（連続性）」についての考えを深めたい。 【評価】 「ひまわり」を育て続ける意味を、生命の尊さや連続性、有限性といった観点から気付くことができる。 (ワークシート、発言)
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて再考する。 ○「生命」ってなんだろう。 「生命とは…」の形で改めて考えよう。 S：死んでしまったら二度と戻らない、かけがえのないもの。残された人が、その人の生きた証を語り継いで行くことは、その人の命がつながっていくことになるのではないかな。	10 ◇「いのちの歌」を歌詞に着目しつつ聴き（ICT）、冒頭と同じ問いを改めて投げかけることで、「生命」についての自分の最初の考えと振り返りを比較し、自分の変容を見取って実感する。 【評価】 「生命」の様々な捉え方を踏まえたうえで、最初の自分の考えからの変容を実感することができる。 (ワークシート、発言)

【生徒のワークシート】

亡なってしまう前から大切にすることも大事だが、亡なってしまう後の大切にすることも大切だと思えた。

私も、もっと家族を大切にしようと思った。心がは、

命とは、物理的にはなくなってしまうけど、心はなくならない大切なもの。

東日本大震災とは、深い関わりはないけど、どう時のつらさや、活動などを、どんな思いで取り組んでいたのか考えることができた。命とは、いつかないもので、失ってしまったら、もう二度と現れないものだし、家族を失った外、悲しい思い出になる物。

振り返り

あまりに災害で大切な人を失った人の話を聞いたことがなかった。なので、こんなに辛いんだな、悲しいんだなという気持ちを失った。生きていくことはどう然てではなくて、明日にもしかしたらいなくなったりするかもしれないから、せせせなななと思えた。

生命とは、決して軽々しいものではなくて、すごく大切な自分の命を大事に思ってくれている人からなるものな気がした。

振り返り

自分ももう1人だけではなく、他人の家族を亡くしているや、亡くなった人やペットの使っていたものをいまでもとまわっているのを私にもわすれず、亡くなった人の分まで、元気にすごしていきたいです。私は、みんながみんなに笑ってねえという時には、笑いたくさ言いたいんですけど、私に笑ってほしいと思えています。

自分の命の大切さや、大切な人を失った。

(2) 人権集中学習旬間のテーマに沿った道徳の実施

活動の一環として、HAPPY はあとふるツリー（資料 1）に取り組んだ。それに関連して、道徳の授業では「魚の涙」を取り上げた。詩の第 4 連の一部を抜いて、さかなクンが具体的に取

資料 1



資料 2



った行動を考えた。ここではミライシードのオクリンク機能を用いて意見の集約をおこなった。それをふまえ、いじめの「傍観者」にならないために、どのような働きかけが可能かを考えた。先入観なく 1 人 1 人と関わることや、存在を救う具体的な手段について、多面的・多角的に捉え、さらに、具体的な場面を想定して考える「深めタイム」へと授業を広げた。

その際、高崎市のアクションプラン（資料 2）を参考に、どのような行動が自分にできるかを、ネームプレートを用いながら議論した。

5 研究の成果と今後の課題（成果：○、課題：●）

(1) ネームプレートを用いた実践

○ネームプレートを用いて思考過程の視覚化を図ることで、活発な意見交流のきっかけになると共に、自分の考えが絶対的なものではないことに気付くことができた。最終的な意思決定の場面においても、「友達の考えを聞いて考えが変わった。」「新しい考え方を知れた。」という振り返りが多くあった。また、授業によって 2 種類のネームプレートを用いることで、場面ごとの思考の変化や、授業の始め・終わりでの自分の考え方の変化を視覚的に捉えることができた。このことから、ネームプレートの活用は、生徒が多様な考え方に触れ、多面的・多角的に考えられるようにするための一助となったと言える。

●ネームプレートを貼る過程で友達の意見に流される生徒、選択や判断に時間を要する生徒が数名いたので、貼る順番の指示、時間の確保など配慮が必要となる。

●二項対立、心情曲線（数直線）、座標軸等を用いて板書を工夫し、葛藤の中から多様な交流活動の設定ができるような工夫が必要。黒板だけではなく、ミニWBの活用も検討が必要。

●ミライシードのムーブノートやオクリンクプラスを用いて、画面上でネームプレートを用いる方法の提案があったので、今後検証していきたい。

(2) 人権集中学習旬間

○HAPPY はあとふるツリー活動とテーマに沿った道徳の授業では、「新しく同じクラスになった友達や以前からの友達のことを深く知るきっかけになった。」「誰がどんな言動をとっているか、アンテナ高く見ることで、友達のよい一面を発見できた。」「見て見ぬふりの人間にはなりたくないと思った。加害者に直接言うのは難しいけれど、友達と一緒に話したり、出かけたりして、外の世界に連れ出すのがよいと分かった。自分にもできそう。」などの感想から、お互いの良さを認め合い、先入観なく関わることの大切さを学んだことが覗える。これらの活動を通して、生徒は人の考えを聞いて考えを深めたり広げたりしながら、自分の考えを行動に移すことの大切さを理解し、判断することができるようになってきた。

6 参考文献

【教材資料・出典】「きみがいちばんひかるとき 光村図書」

【参考資料】はばたく群馬の指導プラン 特別の教科道徳（<https://gunma-boe.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/506/937>）、高崎市学校におけるいじめ防止プログラム（<https://www.city.takasaki.gunma.jp/uploaded/attachment/1446.pdf>）

高崎市いじめ防止啓発クリアファイル「空気」を変えよう、道徳教育 11. 2023 NO.785

多様な考えから、自己のよりよい生き方を考える生徒の育成

—学校全体で取り組む道德教育の推進—

安中市立松井田中学校 原田 亜矢子

〈研究のポイントはこれだ！〉

自分の想い(考え)

- 題材を自分ごととして捉える
- 考え・想い・意見を表出する



多様な考え(議論する)

- クラス、学年、学校全体
- 保護者と語る道德へ



自己のよりよい生き方を考える生徒

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編」には、「道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考え方を深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことが目標として示されている。その実現に向けて、一単位授業のみならず、授業で得た知見や多角的な見方・考え方をどのように生活へ活かしていくかが重要であると考ええる。

本校は令和4年度より、2度の学校統合を終え、カリキュラム編成や学年道德ローテーション等、道德授業の環境づくりが進められてきた。各担当が時間をかけて教材研究を行うことができる一方で、評価のための授業に留まっている実態がある。より充実した道德教育の実現のため、次の2点を研究主題として設定する。一つ目は、生徒の想いを表出するための工夫である。予定調和的な、評価のための授業に留まるのではなく、道德的価値について生徒が題材を「自分事」として捉え、まずは自分の意見をもって授業に参加するための工夫を行う。二つ目は、多様な考えを得るための環境づくりを行うことである。生徒が試行錯誤した考えや視点を、再度違う立場の人々と議論することで生徒の新たな視点や考えを育むことができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

生徒が多様な考えを通して自分の考えをより深めるために、「題材の活用」と「題材の広げ方」を関連付けながら実践することで、道德教育の広がりについて効果を明らかにする。

3 研究の内容

- (1) 題材の活用 —生徒の意見を表出するために—
- (2) 保護者とともに考える道德「道德の宿題」—新たな考え、視点を増やすために—

4 実践の概要

(1) 題材の活用 ―生徒の意見を表出するために―

①事前アンケート・意見交流の場づくり

10月に実施した「二人の写真 (B-(10)相互理解・寛容、自作教材)」では、授業前アンケートを実施した。Google Formを利用したアンケートは導入部分で開示した。素早く集計ができ、自分の意見も反映されているために生徒の授業への関心の高まりが感じられた。

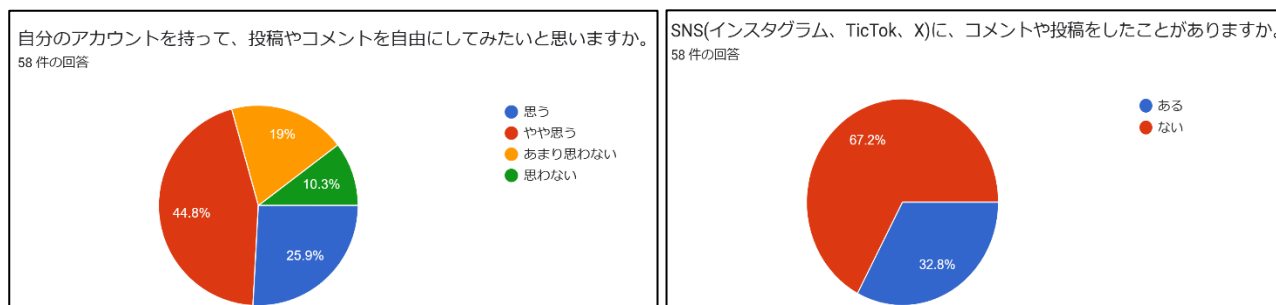


図1 授業前アンケートの結果

また、振り返りの記述から、事前アンケートを行ったことで、授業を通して考えや気持ちの変容を、生徒自身が感じる事がわかった。授業の導入でアンケートに回答するという自分の考えを表明する場面を設けたことで、授業の題材をより「自分事」として捉えることができた。

②ミライシード「オクリンクプラス」個人グループの意見交流

11月に実施した「私の働く理由 (C(13)勤労 (光村図書))」では、ミライシード「オクリンクプラス」を活用した生徒の意見交流を実施した。「オクリンクプラス」では、グループによる共有や、リアクションボタン等でより生徒の意見が反映されやすくなった。

図2では、生徒個人で自分の考えを自由に記入した。数枚作製できる生徒もいれば、1枚に留まる生徒も数名いた。図3では、グループごとのシートにカードを送信し、生徒はカードを見ながら分類を行った。カードの枚数を比べながら、大切にしたい価値観や新しい考えについて活発に議論が行われた。

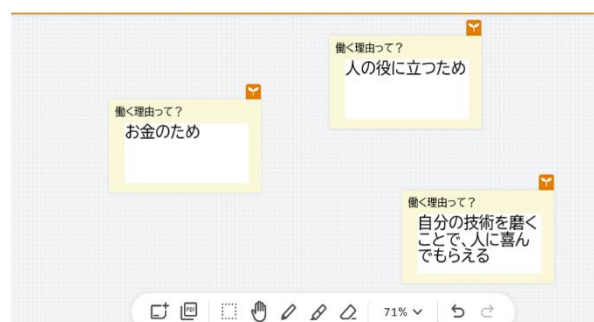


図2 生徒個人のポート

振り返りの活動では、「マイボード」に作成されたカードと、グループの議論に使われた「みんなのボード」を往来しながら振り返る姿が見られた。他者と議論し、関わりながら新たな考えや視点を得た過程を、生徒のタブレット端末に形として残すことができた。



図3 グループ議論後の様子

(2) 保護者とともに考える道徳「道徳の宿題」 ―新たな考え、視点を増やすために―

「私の働く理由」の授業後、自分の考えを保護者と話し合ってくる宿題を課した。実施方法とし

ては、授業プリントを回収後、裏面に保護者へのアンケート協力への依頼文を添付した。(図4)
保護者へのインタビューにとどまらず、生徒自身が考えた意見をもって議論するためである。

月
日

17 私が働く理由

1 年 組 番

名前

考えよう

人が「働く」理由とは、どういうものだろう。

① お金!!! 生きていくためにはお金が必要だから。

1 三田さん、大岡さんはどんな思いで働いているのだろう。

三田さん

大岡さん

2 資料「私が働く理由」から、新しい視点をもった仕事に○をしよう。

3 人が「働く」理由とは、どういうものだろう。

授業後

教科書教材・資料の一部を添付

道德「わたしの働く理由」 アンケートのお願い

わたしたちは何のために働くのでしょうか。授業の最初にそう問いかけてみました。

「お金!」 「生きるにはお金が必要だから、糧が必要や。」
「確かに!」 「物価も高いし、って現実的な意見。」
「だれかのために働く、そうじゃない仕事もあるけど。」 「家をして、仕事できたらなあ。」
「お、新しい視点。」 「(おソツと書いているのもアリアル。)」

中学生の、仕事に対する率直な意見がたくさん出てきました。

道德科のテーマは、「考え、議論する道德」です。授業の中でたくさん議論が交わされました。

今日は、教室を飛び越えて、保護者の皆様とも議論していただこうと考えています。

「わたしは〜思うけど、どう思う?」 「〜だったら、どうする?」 「そういう考えもあるんだねえ。」
どんなことを考えているだろう。何を大切に思っているのだろう。気軽に、率直にお話をしてみてください。

道德の授業をしていると、中学生の言葉や考えに、私たち大人も考えさせられることが多くあります。

話し合ったことについて、アンケートにてお聞かせください。 こちらからお答えください。

図4 授業ワークシート（表面）と保護者へのアンケート（裏面）

Google Form のアンケート機能を利用し、生徒・保護者両者が記入を行った。以下は質問項目と生徒・保護者の回答を抜粋した。

Q1. (生徒記入) 保護者の方との話し合いを通して、新しく気づいたことや考えたことを書きましょう。(抜粋)

道德で働いていた人とは違い、自分の子のためや生活を豊かにするためなど第一はやりたかった仕事だからとっていました。僕は金のためなどシンプルな感じをイメージをしてしたが他の人のことを考えているのが働いている人の共通点ではないのかと思いました。

私は、金のためや生活するためだと思ったが、実際は、金のためや生活するため、家族のため、学校の生徒の夢を叶える応援をしたいから、その生徒のお父さんお母さんの力にになりたいから、音楽と英語が好きだから、など人の為のためや自分の好きなことだからなど自分が想像した以上に働く理由はたくさんでもあった。

教科書では、人のためや自分の好きなことのために働く人達が載っていました。私の母が働く理由は社会人になってすぐと、結婚し私達兄弟が生まれてからとでは異なっていました。社会人になってすぐは「人の役に立ちたい」でしたが、現在は「家族のため・生きるため」「社会とのつながりのため」と知ることができました。働く理由は、その時々で変化していくものなのでは…と感じました。

お金を稼ぐことは大変で自分たちのために働いてくれているんだなと実感しました。もう少し自分たちにできるサポートをして行きたいです。

Q2. (保護者の方へ) 生徒との対話を通して、感じたことをお書きください。(抜粋)

二人の考えがほぼ同じで嬉しかったです。働いたことのない立場でも将来はたらくことの意味について学べることはとてもいい事だと思いました。
今まで「働く理由」をあまり考えたことがなかったが、今回を機に考えることができました。出産前は自分だけの為に働いていましたが、出産後は子供が豊かに生活を送れるように。と考えが変わりました。色々考える機会を与えてくれてありがとう！
今の娘と同じ時期に感じた「仕事への憧れ」と、今自分が感じる家族のためにする「しなくてはいけない仕事」同じ人間でも時期や立場で感じるものが変わってしまったと改めて思いました。これから進んでいく子供達といろいろなタイミングで考えていきたいと思いました。
質問を受けて改めて自分にとって働く意義を考え、子どもに伝えました。いろいろな人の意見を聞いて、子ども自身がいろんな考えがあることに気づけたのが良かったと思います。

生徒には、「自分は～と思うけれど、どう思う？」と切り出すように指導を行った。働く理由をインタビューするのではなく、議論する道徳の延長として位置づけるためである。

生徒側として、働く理由は教科書以上に多岐に渡ること気づいたり、生徒自身が働く理由の一つだと語ってもらったりしたことが感想から見とることができた。保護者の方を巻き込んだからこそ得られた新しく、そして生徒たちにとって貴重な視点である。

保護者側には、道徳で生徒が考えた意見を持ち帰り、話し合う時間を設けたことで授業の様子を伝えることができた。同時に、生徒と対等に話し合おうと自身の考えを振り返る時間になったなど温かいご意見を頂戴した。クラス、学校にとどまらず、家庭を巻き込んだ道徳教育の可能性を感じられた。

5 研究の成果と今後の課題

○成果

- ・授業前の事前アンケートや ICT を活用した意見を表出する工夫を活用したことで、生徒が題材を自分事として捉え、考えようとしていた。
- ・授業後、道徳の宿題を行ったことは、生徒は授業で得た考えから、保護者を巻き込んで家庭での議論を実現できた。また、生徒は授業で考えた意見と異なる、さらに新しい視点を得ることができた。また、保護者へ道徳授業の様子を伝える手段の一つとなり、学校と家庭で連携した道徳教育へ繋がっている。

●課題

- ・道徳の宿題について、新たな試みとして道徳推進主任の行った授業のみにとどまった。今回の成果について、学校全体で共有していくことで、ローテーション道徳を活かして様々な教員が実施できると学校全体の道徳授業への関心を高めることができると考えられる。保護者の負担を鑑み、学期に1度程度実施できるとよい。
- ・保護者との会話が少ない家庭が、どのように参加できるかが課題である。今回は任意での参加としたが、学年の3分の1程度の協力を仰ぐことができたが、家庭に困難を抱える生徒への配慮が必要不可欠である。

- ## 6 参考文献
- ・『はばたく群馬の指導プラン II ICT 活用 version』群馬県教委育委員会（令和3年）
 - ・Benesse 教育情報 ONLINE <https://bso.benesse.ne.jp/index.html>